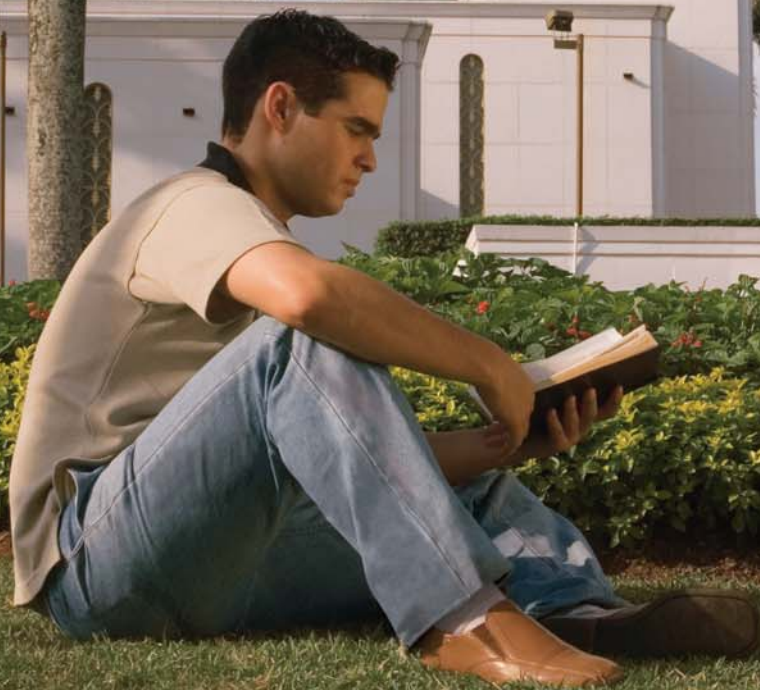


リアホナ



表紙の記事——
ヤングアダルト——
参入する前から神殿の祝福を受ける、
10ページ

神殿結婚以上のもの、16ページ

わたしの人生には計画があります、
「フレンド」4ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ベリール、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ティーター・F・ウーグトルフ、デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ、ゲリー・J・コールマン、菊地良彦

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュコック

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー、リチャード・M・ロムニー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:ビクター・D・ケーブ

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:シャナ・パトラー、リンダ・ステール・クーパー、ラリー・ン・ボーター、ガート、R・バル・ジョンソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・ペラー、ピリアン・ポールセン、サラ・R・ボーター、ジェニファー・ローズ、ドン・L・サール、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テラー、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワデル、キンバリー・ウェッブ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

編集インターン:ブリタニー・ジョンズ・ヒーム、ニール・セイモア

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・パン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー、オース、ワード・G・ブラウン、ジュリー・バーテッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ビクストン

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール:liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カボビア語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブア語、タイ語、タガログ語、タビタ語、タミル語、中国語、チェコ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウワン語、ハイチ語、ハンガリー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2006 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines February 2006.
Japanese. 26982 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

February 2006 no. 2 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——試練の中で精練される 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 10 ヤングアダルトと神殿 十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 20 結婚に必要な自信 メリッサ・ハウエル
- 25 家庭訪問メッセージ——主イエス・キリストを信じる信仰を築く
- 30 完全な福音——前世
- 39 旧約聖書からの教訓——世にあって世のものとならず 七十人 クエンティン・L・クック
- 42 教会機関誌を使って教える ドン・L・サール
- 44 末日聖徒の声
 - サンドイッチショップへ導かれて
 - クリス・L・クーパー
 - 日曜学校を選びました
 - ヘレン・ワーカー・ジョーンズ
 - 奥さんが病院に運ばれました!
 - リュウ・クアンファン
 - 劉 寛逢
- 48 読者からの便り



2 試練の中で精練される

家庭の夕べのためのアイデア

クラスや家庭において、『リアホナ』を使ってより効果的に福音を教えるために、このページに提案されているアイデアを役立てることができます。

「ヤングアダルトと神殿」

10ページ——神殿の写真を見せてください。記事を使い、神殿の歴史、目的、祝福などを復習してください。「緊急性と特権」の部分を出して読み、神殿参入と家族歴史に関する目標を達成する方法の計画を立ててください。

「神聖な結婚に備える」16ページ——

家の中のどこかに、神殿の写真を置

いてください。家族が神殿参入に備えるために実行できることを詳しく書いてください。この活動と、ロバート・D・ヘイルズ長老の、永遠の進路を設定して永遠の伴侶を見いだす努力をするようにという勧告を比較してください。

「2度救われて」32ページ——

W・ロルフ・カー長老の父親が、どのようにしてカー長老を肉体的な危険と霊的な危機の両方から救い出したかを、声に出して読んでください。肉体的に、または霊的に救われたときのことを、家族に話すように勧めてくだ



青少年

- 8 リカルドは一人で歩いた ポール・バンデンベルグ
- 16 神聖な結婚に備える 十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ
- 26 セミナリーは幸せの源 ジャネット・トーマス
- 32 2度救われて 七十人 W・ロルフ・カー
- 35 ポスター——生ける水
- 36 質疑応答——友人は教会になじめないと感じています。教会で歓迎されていると感じてもらうにはどうしたらよいでしょうか。



F12 しあわせになれる本 ほん

26 セミナリーは
幸せの源



フレンド

- F2 預言者の声——灯台 よげんしゃ こゑ 第一副管長 トーマス・S・モンソン とうだい だいいちふくかんちやう
- F4 分かち合いの時間——
わたしの人生には計画があります わかちあひのじかん リンダ・マグレビー けいかく
- F6 ウィルフォード・ウッドラフだいかんちょうのしょうがいから——
魚つりといのり さかな
- F8 もういちど天のお父さまといっしょにすむことができます
パット・グレアム てん
- F10 特別な証人——だれでしょう? とくべつ しょうにん
- F11 おもちゃばこ せいいてんのとうじょうじんぶつの紙人形 おもちゃばこ かみにんぎやう
- F12 ちいさなみんなのために——しあわせになれる本 ちいさなみんなのために ほん
- F14 リンダはわたしの友達 ハイディ・レヌーフ・ブリスコ ともだち

表紙

表紙——写真/マシュー・ライアー、写真はイメージです

裏表紙——「天使モロナイ」アバード・T・フェアバンクス画、教会歴史美術博物館の厚意により掲載

「フレンド」表紙

絵/バス・M・ホイッタカー

さい。この話を、贖罪や、救い主が肉体的な危険や霊的な危機から救い出してください。海に出ている人にとって灯台がそれほど大切なのはなぜかを話し合ってください。記事を段落ごとに声に出して読んでください。段落を一つ読む度に、主の灯台の光は、わたしたちをどのように天の家へと導いてくれるか、話し合ってください。

「世にあって世のものとならず」

39ページ——記事の冒頭部分を使ってソドムとゴモラの話を復習し、ステーク会長が心配したこの世を取り巻く状況について話し合ってください。家族の福音に従う決意が試される、しかも実際に起こりそうな状況を設定し、ロールプレーをしてください。将来、これと同じまたは似た状況に陥ったときにどのように対処したらよいか、家族が前もって計画しておけるように助けてください。

「灯台」F2ページ——灯台の絵を見せてください。海に出ている人にとって灯台がそれほど大切なのはなぜかを話し合ってください。記事を段落ごとに声に出して読んでください。段落を一つ読む度に、主の灯台の光は、わたしたちをどのように天の家へと導いてくれるか、話し合ってください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

| | | | |
|----------|-------------------|-----------|------------|
| 安息日 | 32, 44 | 神殿と神殿活動 | 10, 16 |
| イエス・キリスト | | 救いの計画 | 30, F4, F8 |
| | 2, 25, 35, F2, F4 | 聖文研究 | F11 |
| 祈り | F6 | 聖約 | 10, 16 |
| 癒し | 44 | セミナリー | 26 |
| 教えること | 1, 42 | 前世 | 30 |
| 開拓者 | 2 | 堪え忍ぶこと | 2 |
| 家族歴史 | 10 | 伝道活動 | 32 |
| 家庭のタベ | 1 | 日曜学校 | 42, 44 |
| 家庭訪問 | 25 | フェローシップ | 36 |
| 逆境 | 2, 44 | 扶助協会 | 25 |
| 旧約聖書 | 39 | ホームティーチング | 7 |
| 教会への出席 | 8, 36 | 守り | 32, F2 |
| 結婚 | 16, 20 | 模範 | 8 |
| 高潔 | 39 | ヤングアダルト | 10 |
| 使徒 | F10 | 勇気 | 20, 39 |
| 障害 | F14 | 友情 | 36, F14 |
| 初等協会 | F4 | 喜び | 26, F12 |
| 信仰 | 2, 25, F2 | 靈感 | 44 |



試練の中で 精錬される

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

これはすべての人へ向けたメッセージです。特に、試練、悲しみ、良心のとがめ、悩みに耐え切れなさと感じている人、逆境のただ中で怒りの感情に飲み込まれそうになっている人に向けたメッセージです。これを通して、希望と強さと自由が得られるよう願っています。

何年も前に、デビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)が、マーティン手車隊の経験について話しました。初期の改宗者の多くは、ヨーロッパからの移民であり、貧しくて牛馬や荷馬車を買うことができませんでした。貧困のため、すべての持ち物を積んだ手車を引いて、自力で平原を横断するしかありませんでした。マッケイ大管長は、この英雄的な大移動が終わって何年も後の出来事について話しました。

「ある教師が、レッスン中にこう言いました。『そのような状況で[マーティン手車隊が]平原の横断を試みたのは、いやそのような試みを隊に許可したのは、賢明ではありませんでした。』」

次いでマッケイ大管長は、そのレッスンに参加し、話の成り行きを見守っていた男性のことを紹介しています。「教会とその指導者たちに対する痛烈な非難の言葉が次々に出てきました。手車に積めるだけの物資と身を守る手段のほかに何も持たずに平原を横断するのを改宗者の一団に許可したことに対してです。

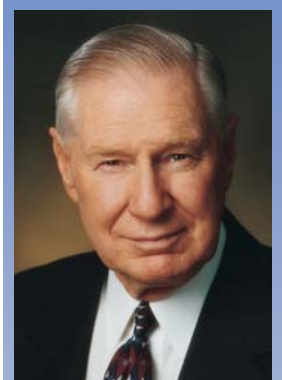
部屋の隅の方に……一人の年輩の男性が腰かけていました。彼はしばらく黙って聞いてい

ましたが、やがて我慢できなくなり、立ち上がって語り始めました。その場にいた人々は、彼の言葉を決して忘れないでしょう。感情が高ぶっていたせいか顔色が変わっていました。それでも、穏やかに、慎重に、しかも心を込めて、実に誠実な態度でこう語ったのです。

『もう非難はやめてください。皆さんは自分が口にしていないことについて、何一つ知らないはずで。歴史の表面的な事実など、ここでは何の意味もありません。そのようなものは問われている事柄に対して何ら正しい解釈を与えないのです。マーティン隊を送り出す時期が遅かった、判断を誤ったと言いたいのですね。確かにそのとおりです。しかし、わたしはその隊の中にいました。妻もそうです。皆さんが今話したネリー・アンサンク姉妹も、一緒でした。わたしたちは皆さんの想像を絶する苦しみを味わいました。厳しい自然にさらされたため、また飢えのために、多くの人が死にました。でも皆さんは、マーティン隊の生存者が一言でも不平を言うのを聞いたことがありますか。……

手車を引いていたわたしは、病氣と飢えから、疲労の限界に達していました。一步足を踏み出すのもやっとの状態でした。前方に広がる砂地と丘の斜面を見て、わたしは言いました。『あそこまでだ。あそこまでしか行けない。この荷物を引いてあの丘は越えられない。』

老人は続けました。「わたしはその砂地を指して進み、やっとのことでそこに到達しまし



人生の苦悶を
味わうときに、
人は天の羊飼いの
静かなさやきに、
いっそう熱心に
耳を傾けるように
なるのです。

た。すると、手車がわたしを押し始めたのです。だれが押ししているのだろうと何度も振り返って見ました。しかし、だれもいません。そのとき、神の天使たちがそこにいるのがわかりました。

わたしは手車で来たことを後悔したでしょうか。いいえ。あの当時も、そしてその後もずっと、一度も後悔したことはありません。神を知るために払ったあの代価は、わたしたちにとっては特権なのです。わたしは、マーティン手車隊の一員としてここに来た特権を感謝しています。』¹

精錬の火

さて、今述べたことに偉大な真理があります。すなわち、痛みや苦しみの中にあるとき、人生に雄々しく立ち向かっているときに、わたしたちは精錬の火をくぐり抜けるのです。そして人生の中で意味もなく重要でないものが、不純物のように溶け出し、信仰が輝きを増し、完全になり、強固なものとなります。このような方法で、人は神の面影を映す者となるのです。それは、神を知るために厳しく取り立てられる清めの代価の一部です。人生の苦悶を味わうときに、人は天の羊飼いの静かなささやきに、いっそう熱心に耳を傾けるようになるのです。

だれの人生にも、苦しい日、絶望の日、試練の日、嵐にもまれる日がやって来ます。熱心に善を求め、忠実であろうと誠実に努力している人を含め、すべての人に、様々な苦悶、悲しみ、心痛が用意されているようです。使徒パウロは自分に与えられた試練についてこう語りました。「そこで、高慢にならないように、わたしの肉体に一つのとげが与えられた。それは、……わたしを打つサタンツァンの使なのである。』²

肉体にあるそのようなとげは、痛みを呼び起こします。しかし、それは、意義も希望もない生活を変えることがしばしばあります。その変化をもたらしてくれる精錬のプロセスは、たいへん残酷で厳しいものに思われます。しかし、このようにして人は陶器師の手の中の軟らかい粘土ようになって、信仰、奉仕の精神、美、強さを備えた生活を築いていくのです。ある人は、精錬の火によって、神への信仰と信頼を失ってしまいます。しかし永遠の観点から眺める人は、この精錬のプロセスが完成へ至るために不可欠であることを理解するのです。

アルマは言いました。「羊飼いがこれまでも、また現在も呼んでおられるにもかかわらず、[あなたたちは]その声を聴こうとしない……。』³ 窮地に陥ったときこそ、心と魂が、再生され、新しく生まれ変わることができるのです。大勢に従う生活に別れを告げ、「わしのように翼をはって、のぼることができる』⁴ というイザヤの約束に喜びを見いだすのです。

信仰の試しの後に証が得られます。モロナイも次のように証しています。「信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。』⁵ 信仰の試しは、かけがえのない経験になります。

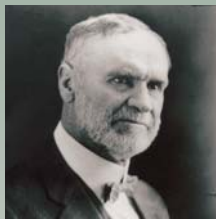
ペテロは言いました。「あなたがたの信仰はためられて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれかわとに変わるであろう。』⁶ 試練と試しは新たに生まれるための備えなのです。

新たな者となる

霊的な逆境によって生まれ変わると、わたしたちは新たな者となります。モーサヤ書に記されているとおり、全人類は再び生まれなければならない。つまり、神から生まれ、変わり、贖われ、高められて、神の息子、娘になる必要があるのです。⁷ マリオン・G・ロムニー第一副管長(1897-1988年)は、その驚くべき力について語りました。「一人一人が同じような影響を受けます。赤々と燃える神の御霊みたまによって心を照らされると、罪と闇に覆われた世で消極的な生活に甘んじていることなどできなくなります。義を推し進め、人々の生活と心を罪の縄目から解放する積極的な神の代理人となるために自らを備えるよう、心を駆り立てられるのです。』⁸

十二使徒定員会のパーリー・P・プラット長老(1807-1857年)は、この再び生まれるという気持ちをこのように表現しました。「わたしにとっては、世界を引っ繰り返すことや、山を掘り崩すこと、地の果てまで行くこと、アラビアの砂漠を横断することの方が、神権を受けながら何もしないでいるよりはたやすいでしょう。聖なる油が注がれた以上は、最後の敵が降伏し、死が減じ、真理が勝利を収めるまでは、決して休んではいられないのです。』⁹

残念ながら、過酷な試練の中には、自分自身の愚かさや弱さ、あるいは不注意や背きが原因である場合があります。こ



「これこそ、神が子供たちに苦しみを経験させられる理由ではないでしょうか。神は子供たちにいっそう御自分に似た者になることを望んでおられます。神は人間が過去に味わった苦しみ、あるいは未来に味わう苦しみとは比較にならないほどの苦しみを経験されました。ですから神は、同情と慰めを最も豊かに注ぐことができになるのです。」——オーソン・F・ホイットニー長老

の問題を解決するのに最も大切なのは、正しい道に立ち返ることです。必要であれば、完全な悔い改めの段階を一つ一つ忠実に踏むのです。この悔い改めというすばらしい原則を通して、多くのことが完全に正され、すべてのことがより良い状態になるのです。

助けを受けることができます。だれに助けを求めたらよいのでしょうか。十二使徒定員会のオーソン・F・ホイットニー長老(1855-1931年)はこの問いにこう答えています。

「悲しみと苦難の中にあるときには、だれに助けと慰めを求めるべきでしょうか。……苦しみを経験した人々です。彼らは自分の苦しい経験から、同情や慰めを豊かに注いで、今苦しんでいる人を祝福することができるのです。苦しみを味わったことのない人にそのようなことができるでしょうか。

……これこそ、神が子供たちに苦しみを経験させられる理由ではないのでしょうか。神は子供たちにいっそう御自分に似た者になるこ

とを望んでおられます。神は人間が過去に味わった苦しみ、あるいは未来に味わう苦しみとは比較にならないほどの苦しみを経験されました。ですから神は、同情と慰めを最も豊かに注ぐことができになるのです。」¹⁰

イザヤは救い主がお生まれになる以前に、救い主のことを「悲しみの人」と表現しました。¹¹ 教義と聖約の中で、御自身について救い主はこう言われました。「その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯^{さかずき}を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。」¹²

自分の受ける苦しみを罰であると感じる人もいます。ロイ・W・ドクシーはこう述べています。

「預言者ジョセフ・スミスは教えました。『聖徒は病気、疫病、戦争など、終わりの時におけるすべての裁きを免れるという考えは誤ってい

ス テイルマン・ポンドの家族は
ウインタークォーターズに到着しました。
ほかの多くの家族と同じように、ポンド家族も大変苦しいテント生活を続けました。
ウインタークォーターズまでの旅の途中で5人の子供が亡くなったのは、彼らにとって苦難の始まりにすぎませんでした。





「再臨」ハリー・アンダーソン画

テロはこう
言っています。
「あなたがたの
信仰はためされて、
火で精練されて……
イエス・キリストの
現れるとき、
さんびと栄光と
ほまれとに
変わるであろう」

ます。試練は背きの結果であるというのは邪悪な原理です。』(Teachings of the Prophet Joseph Smith, 162)

ジョセフ・F・スミス大管長は教えています。『病気や苦しみは神の憐れみか怒りのいずれかによるものであると信じるのは愚かな考えです。』¹³

パウロはそのことを完全に理解していました。救い主について話しているときにパウロはこう言いました。

「彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、

そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源と〔なられた。〕」¹⁴

苦難の記録

並外れた苦難を経験する人もいます。教会の初期の時代を生きたスティルマン・ポンドは、ノーブーにおいて七十人第二定員会の会員です。教会設立後間もなく改宗した人物で、マサチューセッツ州ハーバードストンの出身でした。ほかの会員たちと同じように、スティルマンと妻のマリアと子供たちは迫害を受け、ノーブーを追われました。1846年9月、彼らは西部への

大移民団に加わりました。マラリア、コレラ、結核が流行したその年の初冬、ポンド家族は言語に絶する苦難を経験します。この3つのすべての病気にかかったのです。

マリアは結核になりました。子供たちは全員マラリアにかかりました。降り始めたばかりの雪の中を旅している間に3人の子供が亡くなりました。スティルマンはその子供たちを平原に埋葬しました。悲しみと心痛とマラリア熱のせいで、マリアの病状は悪くなる一方でした。彼女はもはや歩くこともできません。病気で衰弱しながら、マリアは双子を産みました。しかし、ジョセフとハイラムと名付けられた双子は、数日のうちに亡くなりました。

スティルマン・ポンドの家族はウィンタークォーターズに到着しました。ほかの多くの家族と同じように、ポンド家族も大変苦しいテント生活を続けました。ウィンタークォーターズまでの旅の途中で5人の子供が亡くなったのは、彼らにとって苦難の始まりにすぎませんでした。

ホレス・K・ホイットニーとヘレン・マー・ホイットニーの日記によれば、スティルマン・ポンドはさらに4人の子供を失っています。

「1846年12月2日水曜日、ローラ・ジェーン・ポンド、14歳、……寒さと熱のため死亡。」2日後の

「1846年12月4日金曜日、ハリエット・M・ポンド、11歳、……寒さのために死亡。」3日後の「1846年12月7日月曜日、アビゲール・A・ポンド、18歳、……寒さのために死亡。」それからわずか5週間後の「1847年1月15日金曜日、ライマン・ポンド、6歳、……寒さと熱のために死亡。」¹⁵

4か月後の1847年5月17日、妻のマリア・デービス・ポンドも亡くなりました。平原を渡って、スティルマン・ポンドは9人の子供と妻を亡くしたのです。彼はユタで傑出した開拓者となりました。後に七十人定員会の指導者になっています。スティルマン・ポンドは、平原を渡って9人の子供と妻を亡くしましたが、信仰は失いませんでした。彼は途中で投げ出すことなく前進しました。多くの先達や後輩と同じように、神を知るために犠牲を払いました。

天の羊飼いはすべての人に、希望と力と解放のメッセージを持っておられます。もしも夜がなければ、昼に感謝することはないでしょうし、星や広大な天を目にすることもないでしょう。わたしたちは、甘さとともに苦さも味わわなければなりません。日々遭遇する逆境には神の目的があるのです。逆境は人を備え、清め、人から不純なものを取り除きます。だからこそ、逆境は祝福となるのです。

バラの花を摘むには、とげに触れざるを得ないときがよくあります。同じ茎についているからです。

精錬する者の火から、栄光に満ちた解放がもたらされます。それは、気高く、永続する再生を得させてくれます。神を知るために払う犠牲は、必ず報われます。神聖な静寂が訪れます。眠っていた、内なる力が目を覚まします。心地よい義の外套がいのとうに包まれて守られ、霊的なぬくもりを得るのです。祝福を数え上げていると、自己憐憫れんひんは消えていきます。

精錬を耐える人には、必ず永遠の祝福が与えられます。主御自身がこう教えておられるからです。「最後まで堪え忍ぶ者だけが救われる。」¹⁶ イエスがキリストであり、天の救い主あかしであられることを証します。主は生きておられます。主の言葉は優しく、永遠の命をもたらすのです。■

注

1. "Pioneer Women," *Relief Society Magazine*, 1948年1月号, 8
2. 2コリント12:7
3. アルマ5:37
4. イザヤ40:31
5. エテル12:6
6. 1ペテロ1:7
7. モーサヤ27:24-27参照
8. Conference Report, 1941年10月, 89
9. *Deseret News*, 1853年4月30日付, 2

10. "A Lesson from the Book of Job," *Improvement Era*, 1918年11月号, 7
11. イザヤ53:3
12. 教義と聖約19:18
13. *The Doctrine and Covenants Speaks* (1970年), 第2巻, 373. ジョセフ・F・スミス, *Gospel Doctrine*, 第5版 (1939年), 56-57も参照
14. ヘブル5:8-9
15. "Stillman Pond, a Biographical Sketch," レオン・Y・ポンド, H・レイ・ポンド 共編, スターリング・フォーサイス, *Histories*, 末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課, 4で引用
16. 教義と聖約53:7

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 金の指輪、あるいはその絵か写真を掲げる。金には初めたくさんの不純物が混じっていることを説明する。熱を加えることによって不純物が分離し、金が純粋で美しくなることを説明する。そのことと試練を乗り越えることとを比べ、使徒パウロの次の教えについて証する。「あなたがたの信仰は……、朽ちる外はない金よりもはるかに尊い。」

2. 人が試練に遭う理由を家族に挙げてもらう。このメッセージの中にある開拓者の話を読む。これらの開拓者たちはどのような点で、試練によって精錬されることの模範であるか話し合う。この開拓者たちのように、試練に遭ったときにはだれに頼るべきか、家族に聞く。救い主が最高の助言者であられることについて証する。

3. このメッセージの「苦難の記録」の項を声に出して読み、試練の結果もたらされた祝福のリストを作る。試練を通して得た祝福について話すよう、家族に勧める。

リカルドは一人で

リカルドは毎週、教会まで一人で歩きました。その模範がすべてを変えたのです。

ポール・バンデンベルゲ

教会機関誌

今日は日曜日です。聖餐会が始まります。けれども、家族が自分を除いてだれも教会に行きたがらないとしたら、どうしますか。そのようなとき、ペルー・トルヒーヨ・プリマベラステーク、ロスハルディネスワードのリカルド・ナバス・ルイスは、ワイシャツを着てネクタイを締めて、一人で教会まで歩きます。しかも、監督が集会の準備をするのを手伝えるように少し早く到着するのです。

リカルドはこう言います。「ほくはトルヒーヨで執事に召されていることがうれしいです。神権を持つことは、ほくにとって大きな意味があります。」

現在、ワードにいるたった3人の執事の一人であるリカルドは、3年間、毎週一人で教会まで歩きました。リカルドが2歳のときには家族のほとんどが教会の会員でしたが、7歳になるころには、だれも教会に出席したいと思わなくなりました。それでも教会に行きたいというリカルドの気持ちは変わりませんでした。



リカルド・ナバス・ルイスと祖母のマビラは大親友です。リカルドの模範のおかげで、今は毎週日曜日に教会まで一緒に歩きます。

「バプテスマを受ける準備がしなかったんです。すべてをわきに置いてみ^みた^{たま}御霊を感じたいと思いました。ほくの一番の望みは宣教師になることです。教会にずっと来ているのは、そのためでもあります。」

リカルドはいろいろな方法ですでに伝道活動を始めています。リカルドの祖母、マビラ・ルイス・カルデナスはこう言います。「リカルドはわたしの模範でした。いつも教会に行っていたからです。」マビラは数年間、家族を訪ねて来た宣教師の話聞いてきました。リカルドもいつも一緒に福音を学び、毎週日曜日に忠実に教会に出席しました。マビラに賛美歌を教えることもありました。

リカルドは8歳になり、一人で教会に出席していましたが、まだバプテスマの準備ができたとは感じませんでした。でも、リカルドはこう言います。「おばあちゃんにバプテスマを受ける準備ができたなら、きっとほくにもできる

はずです。」こうしてリカルドはマビラと同じ日に、10歳でバプテスマを受けました。

リカルドはマビラについてこう話します。「おばあちゃんはお母さんのようです。ほくが小さいときから育ててくれました。」リカルドは祖父母と4人のおじと住んでいます。「おじいちゃんはパーキンソン病にかかっているの、いすに座れるようにしてあげたり手伝いをしたりします。」リカルドはい

歩いた

つも模範によって家族を教えようとしています。「教会に行くことで模範になれるよう頑張っています。ぼくが正しい道を歩んでいるとき、家族はぼくを見るからです。家族にも教会に来てほしいです。」

家族の中で教会に活発に集っているのは、リカルドとマビラだけですが、リカルドはこう言います。

「ぼくたちは皆で家庭の夕べをします。」

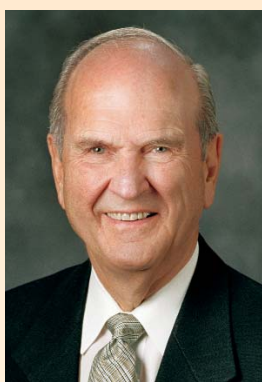
毎週月曜日に皆の前でレッスンを教えるのは幼いリカルドです。「ぼくは家庭の夕べのレッスンにモルモン書と聖書を使います。物語を読んでから証^{あかし}を述べます。時々、執事のためのレッスンテキストを使うこともあります。」

リカルドは友達や近所の人にも証を伝えています。「近所の友達にキリストや預言者、ニーファイについて話します。また信仰や祈りがどのように生活の中で役立つかについて教会で聞いたことを話します。そのまま聞いてくれる人もいれば、聞かずに行ってしまふ人もいます。これはぼくが模範を示せる方法の一つです。」

リカルドはもう教会まで一人で歩くことはありません。今は毎週日曜日にワイシャツを着てネクタイを締めて、祖母と一緒に手をつないでいきます。いつの日か、たくさんの人を連れて教会に行くようになるでしょう。■



ヤングアダルトと 神殿



十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン

神殿について話します。皆さんがこの教義を掘り下げ、その栄光の偉大さを探求し、永遠にわたる重要性を理解できるように手助けをしたいのです。

神殿は目新しいものではありません。「主はいつも御自分の民、すなわち御言葉に聞き従う人々がこの地上に存在するとき、彼らに神殿を建てることを命じてこられた」とあります（『聖句ガイド』「神殿；主の宮」の項、139-140参照）。旧約聖書には神殿の儀式や聖約、さらには神殿の衣服についてさき多くの記述が見つかります（例えば、出エジプト28-29章；レビ8章など参照）。

聖書の中で最も知られている神殿は、ソロモンの時代にエルサレムに建設された神殿です。主はその聖なる宮を自ら受け入れられました（歴代下7：12参照）。その一部は紀元前600年に破壊されました。

それからおよそ100年後、ゼルバベルによって修復されました。この建物は紀元前37年に一部焼失しますが、その後ヘロデが「神殿の山」の敷地を拡大して地ならしを行い、第2の神殿の再建に着手しました（『聖句ガイド』「神殿；主の宮」の項、139-140参照）。

これがイエスの時代に建っていた神殿です。少年イエスを見失い母親が心配しながら捜していたとき、イエスはこの神殿におられたのです（ルカ2：43-49参照）。

最初の宮清めるとき、イエスはそこを「わたしの父の家」と呼ばれました（ヨハネ2：16。13-16節参照）。次の宮清めでは、「わたしの家」と呼んでおられます（マタイ21：13；マルコ11：17）。神殿がさらにひどく汚されることを知っていたイエスは、「おまえたちの家は見捨てられてしまう」と言っておられます（ルカ13：35）。紀元70年に神殿が破壊されたとき、その預言は現実となりました。

当時の神殿の一部で今は「嘆きの壁」と呼ばれている壁の左手に、地下道があります。数年前、ネルソン姉妹とわたしはエルサレムを訪れ、その地下道に入り、最新の発掘品の案内を受けました。そこでは、ユダヤ人のラビがエルサレムに第3の神殿が建設される日を祈り求めています。

モルモン書により、ニーファイが「ソロモンの神殿に倣^{なら}って」一つの神殿を建てたことが分かります（2ニーファイ5：16）。ただしニーファイの神殿は、ソロモンの神殿ほど飾り立てられてはいませんでした。

「アダムからイエスのときまで、神殿の儀式は生者だけを対象に行われた。イエスが……霊界

ヤングアダルトの皆さん、わたしは皆さん一人一人に、神殿が皆さんを祝福することを強調します。まだ参入したことのない皆さんをも祝福するのです。

写真：クリスティーナ・スミス、特記したものを除く。写真はイメージです。背景：© 2015 by B&W Studios、十二使徒モルモン・アポロトモ・フアバックス、教会歴史美術博物館の厚意により掲載

で福音を^の宣べ伝える道をお開きになってからは、死者と生者の業が神殿で行われるようになった。」(Bible Dictionary, “Temple”の項, 781)

聖約の子孫

神殿について読むと、神が忠実に従う者たちと交わされた聖約についても学ぶことができます。彼らは神の「聖約の子孫」と呼ばれています(3ニーファイ20:26。25節;使徒3:25参照)。およそ4,000年前、神はアブラハムと聖約を交わし、全地の民がアブラハムの子孫により祝福を得ると約束されました

(創世17:7;22:18;アブラハム2:9-11参照)。そして、それはイサクにも告げられ(創世26:1-4, 24参照)、ヤコブにも約束されました(創世28章;35:9-13;48:3-4参照)。この聖約を糸にたとえるなら、この糸は、旧約聖書、新約聖書、そしてモルモン書という布地の隅々にまで織り込まれています(例としてモルモン書のタイトルページを参照)。この聖約は、この神権時代における万物の回復に伴って、神により更新されました(教義と聖約124:58参照)。

預言者たちは、アブラハムの聖約が「末日に」しか成就しないことを知っていました(1ニーファイ15:18)。末日とはすなわち現代です(教義と聖約110:12-16参照)。わたしたちは聖約の民なのです。これがほんとうに意味するところは何でしょうか。一緒に聖文から学んでみましょう。

モーサヤ書第5章7節にはこうあります。「あなたがたが交わした聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子および娘と呼ばれる。見よ、それは、今日^{こんにち}キリストが霊的にあなたがたを子としてもうけられたからである。あなた



神 殿推薦状を
受けるに
ふさわしい
高い標準を守るなら、
内なる平安と
霊的強さを
見いだすことが
できます。



THE CHURCH OF
JESUS CHRIST
OF LATTER-DAY SAINTS

Ward or branch _____

Stake or mission _____

1 M/F _____

2 _____

3 _____

4 _____

5 _____

6 _____

7 _____

8 _____

9 _____

File number* _____

Limited-Use
Issue a Limited-Use
unwedded men
firmations for the c
observe sealings of
parents. This recon
day of the month is

がたは、キリストの御名を信じて心が改まったと言う。だから、あなたがたはキリストから生まれ、キリストの息子および娘となったのである。」

第三ニーファイ第20章25節で、イエスはこのように述べておられます。「あなたがたは預言者たちの子孫であり、イスラエルの家に属する者であり、父があなたがたの先祖と交わされた聖約を受けている者である。父はアブラハムに、『あなたの子孫により、地のすべての部族は祝福を受けるであろう』と言われた。」

聖なる宮において、わたしたちは文字どおりにアブラハム、イサク、ヤコブの血統に約束された祝福を受けます。

神殿と結び固めの権能が回復される

回復の業の中で、神殿の業は優先的に扱われました。仕える天使により与えられた最初の啓示にこの教義が含まれています。教義と聖約第2章に記録されているこの啓示はマラキ書第4章を繰り返したものです。モロナイはエリヤが現れることを予告しました。エリヤは父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせます(マラキ4:5-6; 教義と聖約2:1-2参照)。

1836年4月3日、^{すきこし}過越の祭の初日であるイースターの日曜日、確かにエリヤが現れました。天使モロナイの預言と寸分違わず、彼は結び固めの権能の^{かぎ}鍵を与えるためにカートランド神殿を訪れました(教義と聖約110:14-16)。

神殿では、神の力が現れる儀式が行われます(教義と聖約84:20参照)。これらの儀式と神権の権能がなくては、「肉体を持つ人間に神性の力は現れない」のです(教義と聖約84:21)。

現代の神殿の壁には「^{きよ}聖きを主に^{まも}捧ぐ」とあります(出エジプト28:36; 39:30参照)。この言葉は建物について述べているのでしょうか。そのとおりです。しかし、神殿の儀式と聖約、そしてその中で礼拝をする人々のことも指しています。

回復のための神殿

カートランド神殿は準備のための神殿でした。カートランド神殿は現在でも、それを建設した人々の信仰の記念碑として建っています。

後に聖徒がイリノイに到着したとき、主は彼らに再度神殿を建設するようにお命じになりました。なぜでしょうか。

教義と聖約第124章29節から30節にはこうあります。

「それは、彼ら、すなわちわたしの聖徒たちが死者の代わりにバプテスマを受けるバプテスマフォントが地上にないからである。

すなわち、この儀式はわたしの家に属するものであ[る。]」

32節には厳しい警告があります。「もしあなたがたが……これらのことを行わなければ、あなたがたの死者とともに、あなたがたは教会として拒まれるであろう、と主なるあなたがたの神は言う。」

40節にはこう書かれています。

「わたしの名のためにこの家を建てて、わたしがそこで民に儀式を示すことができるようにしなさい。」

第128章は前書きにこの章が書簡であることが記載されています。なぜ預言者ジョセフ・スミスは聖徒たちに直接語りかけるのではなく、手紙をしたためたのでしょうか。

聖なる宮において、わたしたちは文字どおりにアブラハム、イサク、ヤコブの血統に約束された祝福を受けます。

その当時、ジョセフは身を潜めていました。怒りに満ちた暴徒に追われていたのです。自宅に帰ることもできず、友人のエドワード・ハンターの家で記された、驚くべき言葉を読んでみましょう。

「わたしは今、死者のためのバプテスマの件を再び採り上げます。敵に追われてからこのかた、この事項がわたしの心を占め、わたしの気持ちに最も重くのしかかっているように思われるからです。……

……これらは死者と生者に関する原則であり、わたしたちの救いに関して軽々しく見過ごすことのできないものです。彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり、不可欠だからです。それは、パウロが先祖について、わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないと言っているように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。……

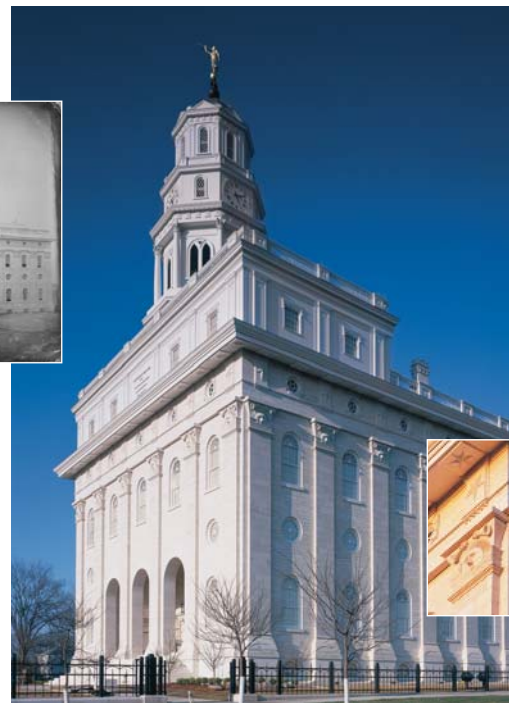
……先祖と子孫の間にある事項について固いつながりがなければ、地はのろいをもって打たれる……。……死者のためのバプテスマ〔は〕……神権時代と鍵と力と栄光のすべての、ことごとくの、完全な和合と結合が起こ〔るために〕必要……です。……世の初めからまだ一度も示されておらず、知恵のある者や賢い者から隠されてきた数々の事柄も、この時満ちる神権時代に……示されることでしょう。』(1, 15, 18節)

聖徒たちは聞き従い、ノーブーに神殿を建設しました。その後、その地から脱出し神殿を失うまでの間に、約6,000人の聖徒がエンダウメントと結び固めを受けました。現在、ノーブー神殿は壮麗な姿に再建され、多くの人々が参入しています。

ノーブーの脱出からおよそ30年の後に、ユタ州セントジョージ神殿が完成しました。死者の身代わりの儀式が系統立てて行われた最初の神殿です。

ブリガム・ヤングは、1877年1月1日、ユタ州セントジョージ神殿の下階の奉獻式においてこのように述べました(ヤング大管長はその年に亡くなっています)。

「先祖たちが死者の中から語り出すことができるとしたら、どのようなことを言うと思いますか。『わたしたちはこの神権時代が来るのを待って、獄のようなこの家に何千年も横たわってきた』とは言わないでしょうか。……彼らはわたしたちの耳もとで何をささやくでしょうか。もし彼らに力があれば、天の雷のようにその声をとどろかせることでしょうか。もしわたしたちがこの業の大切さを理解していれば、自らそれを行っていることでしょうか。天上の使いたちは皆、この一握りの民に目を注ぎ、人



**ノーブーから脱出し、
神殿を失うまでの
間に約6,000人の
聖徒がエンダウメントと
結び固めを受けました。
現在、ノーブー神殿は
壮麗な姿に再建され、
多くの人々が
参入しています。**

類家族の救いのために働くように促しています。……わたしはこのことに思いをはせると、7つの雷が火炎の舌をもって人々を眠りから覚まさせてくれたらと思うほどです。』¹

絶えることのない啓示

1894年、ウィルフォード・ウッドラフ大管長(1807-1898年)は、教会員に次のように指示しました。「末日聖徒の皆さん、今からできるかぎり系図をたどり、父親や母親と自分を結び固めてください。子供たちを両親に結び固め、この鎖をできるかぎり長くつないでください。……これはこの民への主の御心です。』²

家族歴史を探究する目的は、先祖のために神殿の儀式を行うことができるよう、名前と情報を手に入れることです。

教義と聖約第138章は、ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)の偉大な働きの中でも、最も重要な啓示です。この啓示はスミス大管長が亡くなる前月に与えられました。そのような特殊な状況にあった大管長は、この地上にいながらにして次の世を見通せたのです。この啓示が与えられたのは1918年10月のことだと記録されています。

11節以降を引用します。「死者が小さな者も大いなる者もともに群れを成しているのが見えた。

非常に多くの正しい者の霊が、一つの場所に集まっていた。彼らは死すべき世に住んでいた間、イエスの証に忠実であつた者たちであり……

彼らは集まって、神の御子が霊界に来て死の縄目からの

あがな
贖いを宣言されるのを待っていた。……

この大群衆が死の鎖からの開放の時を喜び、語り合いながら待っていると、神の御子が現れて、……^{とら}囚われ人に自由を宣言された。

また、そこにおいて神の御子は、永遠の福音と復活の教義、墮落からの人類の贖い、および悔い改めを条件とする個人の罪からの贖いについて彼らに^の宣べ伝えられた。(11-12, 16, 18-19節)

51節にはこうあります。「この預言者たちを主は教え、彼らに力を与えて、彼らが、主が死者の中から復活された後に出て来て、御父の王国に入り、そこで不死不滅と永遠の命を冠として受け[る者となるようにされた。]」

その冠を受けられるようにしてくれるのが神殿です。このような知識を持っているわたしたちは、どれほど感謝すべきでしょうか。

本題からはそれですが、数年前にあったすばらしい経験を紹介します。ネルソン姉妹とわたしは、スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)夫妻に同行して、ある活動に出席するという特権にあずかりました。そのとき、我が家の5歳の息子も一緒でした。わたしは息子に、寝室の壁にはってある写真のことをキンボール大管長に話すよう言いました。息子は素直に答えました。「神殿です。」



キンボール大管長は全世界にある神殿のことを念頭に置きながら尋ねました。「どの神殿？」

まだ幼く、視野の狭い息子はその質問に困惑しましたが、少し考えてから答えました。「もちろん、結婚する神殿です。」キンボール大管長は満面に笑みを浮かべました。

ハワード・W・ハンター大管長(1907-1995年)は亡くなる前の年の1994年、次のように語りました。「……主の宮を、教会員であることの崇高な象徴とし、最も聖なる聖約を交わす至高の場所として確立してください。……神殿が近くにないために、すぐにあるいは頻繁に参入できないとしても、すべての成人会

員が有効な神殿推薦状の発行を受けると、また推薦状を所持できるように願っています。」³

ゴードン・B・ヒンクレ大管長はこれを再度強調しています。ヒンクレ大管長は、神殿と家族歴史の業を飛躍的に発展させました。1999年3月には、ファミリーサーチ



預言者ジョセフ・
スミスは
「先祖と
子孫の間に……固い
つながりがなければ、
地はのろいをもって
打たれる」と
述べました。



(FamilySearch™)というインターネットサービスが開設され、現在は平均して毎日5万件以上のアクセスがあります。その試みの一部である系図供給ファイル (Pedigree Resource File)を通して、毎月100万を超える名前が登録されています。しかも、すべてが血統のつながった名前です。データベースには10億以上の名前が登録されています。

ヒンクレー大管長が副管長に召された1981年には、教会に幾つの神殿があったでしょうか。19です。現在は122を数えます。さらに多くの神殿が建設中であり、ほかにも建設の予定が発表されています。

神殿に対して個人を備える

ヤングアダルトの皆さん、わたしは皆さん一人一人に、神殿によって皆さんが祝福を受けられることを強調します。参入する前から祝福を受けることができます。神殿推薦状を受けるにふさわしい高い標準を守るなら、内なる平安と霊的強さを見いだすことができます。今こそ主の目に不快なものから生活を清める時^{ゆめ}なのです。今こそねたみや怒りを捨て去り、ささいな罪にも赦しを求める時なのです。

数年前、大管長会は神権指導者に、神殿推薦状を受けるのに適切な時期に関する手紙を送付しました。その中から引用します。

「10代後半ならびに20代前半の独身会員で伝道の召しを受けていない人、まだ神殿結婚のための婚約を取り交わしていない人には、自身のエンダウメントの神殿推薦状を發行すべきではありません。しかし、このような人々は限定推薦状を受けて死者のためのバプテスマを受けることができます。家族や友人の神殿結婚に参列したいと望んでいることは、ヤングシングルアダルトがエンダウメントを受ける十分な理由にはなりません。」(2002年11月12日付。2005年6月21日付、大管長会からの手紙も参照)

この指示は「10代後半ならびに20代前半」の独身者に向けたものであることに注意してください。何年か後に、彼らが結婚し、あるいは安定した信仰を持つようになり、神殿での礼拝が人生における優先事項となるように願っています。

最初に神殿に参入する前に、神殿準備セミナーに参加することは助けになるでしょう。そして、監督または支部長から受け取る『聖なる神殿に参入する備え』⁴という小冊子を読むのもよいでしょう。このようなことが、神殿の儀式と聖約の崇高さを理解する助けとなります。

今この場で神殿結婚を決意し、神殿を念頭に置いて交際をしてください。皆さんと皆さんの伴^{ほんりよ}侶が聖

なる宮の祭壇にひざまずくとき、二人は対等なパートナーです。皆さんは永遠の家族となります。霊性、愛、真の連帯感をむしばむものは何であって主の御心に反しています。これらの神聖な儀式や聖約に対する誠実さにより、皆さんと将来生まれる子孫に永遠の祝福がもたらされます。

緊急性と特権

2003年3月11日付けの大管長会からの手紙に、身代わりの神殿の業がいかに急を要するかが強調されています。そのメッセージは全会員に向けられており、次のように書かれています。「わたしたちの数知れぬ先祖は、神殿の儀式の恩恵にあずかることなく地上での生涯を送りました。……

主の宮で執り行われるすべての儀式は、人の魂が不死不滅であるという根源的、基本的な教義へのわたしたちの信仰を体現するものとなります。」⁵

愛する兄弟姉妹、主は現代のことをあらかじめ御存じでした。「わたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にするす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。」(エレミヤ31:33)

わたしたちは主の民であるため、「王位、王国、公国、および力、主権……を受け継ぎ、「すべての事柄について昇栄と栄光を受ける」ことでしょう(教義と聖約132:19)。これはわたしたちの受け継ぎであり、特権です。そのことを証します。■

この記事は、2003年5月4日に、ユタ州ソルトレーク・シティーで行われた教会教育システム衛星放送の説教を基に書かれました。

注

1. 『歴代大管長の教え——プリガム・ヤング』339, 327. 教義と聖約138:47-50も参照
2. *The Discourses of Wilford Woodruff*, G・ホーマー・ダラム選 (1946年), 157
3. ジェームズ・E・ファウスト「ハワード・W・ハンター大管長——空を飛ぶ鷲のように」で引用、『聖徒の道』1994年9月号, 2-4
4. この小冊子は神殿準備セミナーの生徒用テキストとしても使用される(カタログ番号36793 300)
5. 「大管長会からの手紙」『リアホナ』2004年3月号, 47



神聖な結婚に 備える

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ

神殿結婚という言葉は、永遠の結婚を執り行ってもらうためにどこで結婚するかを表しています。これに対し、日の栄えの結婚とは、神殿結婚の儀式で交わした神聖な聖約に忠実であることです。つまり、日の栄えの原則に基づいて結婚生活を送ることです。

日の栄えの結婚には、聖約を交わした後に、幸福と昇栄に至る、ふさわしく献身的な生活を続けることが求められます。律法にかなった生活を送るなら、伴侶とともに、そして家族とともに地上に小さな天国を築くことができます。

日の栄えの結婚ほどすばらしいものはほかにありません。

ルイス・キャロルの物語
『不思議の国のアリ

ス』で、アリスはチェシャ猫に近づいて尋ねます。「ちょっとおたずねいたしますが、ここからどちらのほうへいけばよろしいのでしょうか？」(訳注——会話部分は、岩波書店刊、田中俊夫訳『ふしぎの国のアリス』から引用、以下も同じ)

「それはおまえのいきたいと思うところ次第さ」と猫は言いました。

「どこでもかまわないのです。」

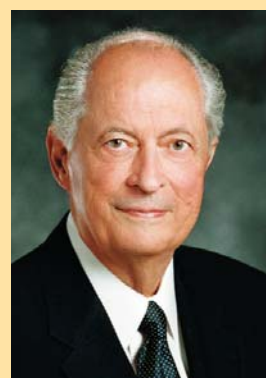
「じゃあ、どっちへいこうとおなじことだよ」と、猫は言いました。

「どこかへいき着くことさえたしかならば」とアリスは説明を付け加えました。

すると猫は興味深い真理を語りました。「なあに、それは大丈夫いきつくさ。どんどん歩いていきさえすればね。」

わたしたちの多くが、どこへ行きたいのかをはっきりと自覚することもなく、「このままどんどん行きさえすればどこかへ行き着く」と思い込んで進んでいるのではないのでしょうか。「どこかへ」では不十分です。どこへ行きたいのかを自覚し、そこへ到達できるようにしっかりと決意しなければなりません。そして、早い時期からその知識と決意をしておく必要があります。

アルマは述べています、「わが子よ、忘れずに若いうちに知恵を得なさい。まことに、神の戒めを守ることを若いうちに習慣としなさい。」(アルマ37:35)これがすべてを語っています。すぐに実行しましょう。



結婚する前に、
相手が何をほんとうに
望んでいるのかを
見極めてください。

神殿推薦状

一度日の栄えの結婚をしようと決意したなら、日の栄えの結婚について学び、実現するために必要なことを実行しなければなりません。

神殿に参入するには、推薦状と呼ばれるものが必要となります。最初に監督か支部長が綿密な面接を行います。それからステーク会長か伝道部長が面接します。以下は、面接で尋ねられる質問の一部です。

「あなたは永遠の父なる神とその御子イエス・キリストと聖霊に対して、信仰と証を持っていますか。

キリストの贖罪と、救い主、贖い主としての主の役割に対して、証を持っていますか。

この末日における福音の回復に対して、証を持っていますか。

末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長を預言者、聖見者、啓示者として支持していますか。また大管長が、すべての神権の鍵を行使する権限を託された、地上で唯一の人であることを認めていますか。大管長会ならびに十二使徒定員会の会員を預言者、聖見者、啓示者として支持していますか。教会のそのほかの中央幹部と地元の管理役員を支持していますか。

純潔の律法を守っていますか。

自分の家族に対して、教会の教えと一致しない行いをしていませんか。

自分が交わした聖約を守り、聖餐会や神権会などの集会に出席し、福音に定められた律法や戒めを守るために努力していますか。

隣人といつも正直に交際していますか。

什分の一を完全に納めていますか。

知恵の言葉を守っていますか。

神権役員のもとで解決しておかなければならぬ罪や過ちを過去に犯して、まだ完全に解決していない事柄はありませんか。

あなたは自分には、主の宮に入って神殿の儀式を受ける資格があると思いますか。」

結婚と関連づけながらこの推薦状について考えることは大切です。つまり、この世においても永遠にわたってともに生活しようとする伴侶を選ぶときは、自分にこう問いかけるのです。「彼(または彼女は)、この推薦状を得るにふさわしい生活を送ることが確かにできるだろうか。」

結婚は
山登りに
似ています。
自分と伴侶を
ロープで結び、
人生の山を
登り始めます。



推薦状をもらって神殿に参入してエンダウメントを受けることができます。神殿で結婚する前に、すなわち夫や妻として結び固められる前に、エンダウメントの儀式を受けます。

わたしたちには、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、日の栄えの結婚に向けて計画を立て、準備する特権があります。

伴侶を選ぶときには、あなたが二人が日の栄えの結婚関係を築きたいと心から願っているか、永遠の家族を持ちたいと願っているか、永遠の伴侶を得て、天の御父のもとで暮らしたいという望みを抱いているかを確認してください。

互いに支え合う

結婚は山登りに似ています。自分と伴侶をロープで結び、人生という山を登り始めます。二人に子供が生まれると、父親と母親である自分たちにその子供をロープで結んで登り続けます。ロープは山を登る人をしっかりとつないでくれるでしょう。しかし、そこには自然の脅威である風雨や雪、氷などが待ち構えています。この世の脅威は、皆さんを永遠の山から引きずり下ろそうと襲うことでしょう。頂上へはどうしたら到達できるのでしょうか。

ある人はその答えとしてこのように言いました。「わたしを引き上げてください。わたしもあなたを引き上げます。そうしてともに登りましょう。」これは何を言っているのでしょうか。

わたしはあるとき、この言葉の意味をよく表す経験をしました。ハーバードビジネススクール(訳注——ハーバード大学の大学院)にいたころです。わたしの能力はほぼ限界に達していました。スクールでの1年目、教師のおかげで生徒たちがそれまでに築いていた自信は粉々に砕かれてしまいます。彼らがスクールへ入学する前にどんな功績を上げていてもです。それまでの人生で学んだことを越えて前進するのがどんなに大変か身にしみて分かるのです。

そのように学業と必死に取り組んでいたとき、伝道部長はわたしに長老定員会の会長になるように言いました。人生の中で教会での責任について疑問を抱いたのは、唯一そのときだけでした。皆さんも次のような疑問を持つことがあるでしょう。「奉仕する時はいつですか。」その問いにわたしが

出せる唯一の答えはこうです。「求められたときです。」

わたしは家に帰り、妻に言いました。「長老定員会の会長になれば、勉強に支障を来すかもしれない。」すると彼女は次のように言いました。この言葉は長年わたしを力づけてくれました。「ボブ、わたしはハーバードの修士号を取得している夫よりも、活発な神権者の夫を持ちたいわ。」そしてわたしを抱き締めると、「学業も教会の責任も、二人で頑張りましょう」と言いました。これが永遠のパートナーシップです。

教義と聖約には(この節を書き留めてポケットに入れ、チャレンジに出遭ったときに読み返していただきたいと思います)こう書かれています。「それゆえ、あなたのすべての生き方により、またすべての祈りにより、すべての訓戒により、すべての行いにより、あなたの兄弟たちを強めなさい。」(教義と聖約108:7)言い換えると、わたしたちは毎日、話すとき、祈るとき、訓戒によって、行いによって互いに助け合わなければならない、ということです。

永遠の進路を決める

進路を決め、自分が今どこへ行こうとしているのかを自覚することはとても重要です。どうぞ、多くの人とデートをしてください。どうぞ、どんな人と一緒にいたいのかを自覚してください。そして、皆さんが接する独身成人たちを助け、多くの人と交際するよう勧めてください。

結婚する前に、相手が何をほんとうに望んでいるのかを見極めてください。そのためには、相手が集会に出席し、証を持ち、永遠のゴールについて話すことができる人なのかどうか知ることです。

主の祝福が皆さんとともにあるように祈っています。神が生きておられ、イエスがキリストであられることを知っています。わたしが人生で不幸や落胆や悲しみに出遭ったときは、わずかとはいえども主の教えから外れたときでした。そのことを証します。皆さんが真の幸福を得られますように。日の栄えの結婚の喜びを、地上における小さな天国のような家庭を通して見いだせるように祈っています。■

この記事は、1976年11月9日、ブリガム・ヤング大学ディボーションアルでの話を基に書かれました。



結婚に必要な

独身時代に恐れを抱いていた多くの教会員が、幸せな結婚生活を送っています。

メリッサ・ハウエル

「自分は良い^{はなりよ}伴侶としての条件を備えているでしょうか。」

「両親はとても悲惨な離婚をしました。わたしも結婚したら離婚してしまうのではないかと心配しています。」

「結婚したら、家族を養っていけるでしょうか。」

独身の末日聖徒の中には、このような恐れを抱いて結婚に踏み出せない人々があります。では、どうしたら恐れのお気持ちを克服し、愛に代えることができるでしょうか。

たとえ恐れを完全に消し去るのは難しくても、主に頼るなら、幸福な結婚生活を送れるように天の御父の助けがあることを、多くの教会員が学んでいます。

離婚に対する恐れ

もしかすると自分が離婚を経験していたり、両親や近い人が離婚していたりする場合もあるでしょう。また昨今の離婚の増加が、心に重くのしかかっているかもしれません。多くの独身成人が、離婚するかもしれないという恐れからあえて結婚せずに、幸福で満ち足りた永遠の結婚とし得る機会を逸してしまっています。しかし主の助けを願い求めるなら、周囲の人から貴重な教訓を学ぶことができます。たとえそれがつらく悲しい経験から得たものだとしてもです。そして信仰をもって前進し、幸福な結婚は実際に可能であると分かるのです。

イギリスのブリストルに住むスコット・バロックは、18歳のときに両親が離婚しました。その結果、自分もいつか離婚するのではないかと不安を抱くようになりました。しかし両親の経験から、重要な教訓も学びました。

「両親が離婚したために、ぼく自身はあまり気軽にデートで

きませんでした」とバロック兄弟は語ります。「結婚の聖約をととてもまじめに考えたのです。」

バロック兄弟は抱いていた心配について、結婚する前に姉妹と話し合い、いつも祈って聖文を読みました。

「大きな効果がありました」とバロック兄弟は話します。「おかげで言い争いも減り、二人が抱いていた多くの恐れもなくなったのです。」

「ニーファイの語った『わたしは行って……行きます』(1ニーファイ3:7)という言葉から素晴らしい原則を学ぶことができます」とバロック兄弟は語ります。「恐れがあると、もっと天の御父に頼れるようになります。御父は道を備えてくださいました。」バロック夫妻は、結婚生活において天の御父の戒めに従おうと努力することによって祝福を受けてきたと言います。

伴侶として不十分であることへの恐れ

だれもが不完全であり、その弱点は結婚生活においてさらに顕著に表れることがあります。コロラド州ハイランドランチのケン・ノルシュは、長い間、自分は結婚しても良い伴侶にはなれないのではないかと恐れていました。そして、その恐れを克服しようと努力しました。妻のチャリスと結婚したのはそうした努力を重ねていたときでした。重荷を主に一緒に負っていただくことができるようになるにつれ、恐れは次第に小さくなっていきました。

ノルシュ兄弟は完全に「自分の必要よりも妻の必要を優先させる」と決意したいと願っています。「自分の時間をどう使うか、自分本位の活動をしていないかと、心配になります。」ノルシュ兄弟は、恐れに押しつぶされそうになるときは、天

自信



の御父「みこころが行われますように」と謙遜^{けんそん}に言われた救い主の模範を思い出し、見習うようにしています(マタイ26:42)。「その言葉を心の中で自分に何度も言い聞かせ、それから自分のなすべきことを行うようにしています。」

ノルシュ兄弟は、時がたつにつれて自信や妻への信頼が増してきたと言います。また夫や父親であることに感じられる喜びに焦点を合わせるようにしています。「神はわたしたちに幸せになってほしいと願っておられます。そして、夫であり父親であることは、幸福を感じる最も良い方法の一つです」と彼は語ります。



主の導きを求める夫婦は、
結婚生活において
主が祝福してくださることを知るでしょう。

経済的な必要に対する恐れ

エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)は、若い男性に向けた話の中で、多くの人が大黒柱として家族を養うことを恐れがちであると話しました。

「わたしは、皆さんの中に、結婚したときに課せられる現実の責任について恐れを抱いている人がいるのを知っています。経済的に不安定なこの時代に、妻や子供を養い、必需品を賄えるかどうか心配しているのです。この恐れは信仰に置き換えなければなりません。

皆さんに断言します。勤勉に働いて、忠実に^{じゅうぶん}仕分の一と献金を納め、まじめに戒めを守るならば、主は皆さんを支えてくださるでしょう。もちろん犠牲も要求されますが、それによって皆さんは成長し、さらに立派な人間になるのです。



不安に立ち向かう

「大切な決断を下す際に注意すべき事柄やよく考えなければならないことがあるのはもちろんですが、光に

照らされた後に、良いものから目をそらさせようとする誘惑に注意してください。以前、ある事柄について祈り、信頼したとき、それが正しいものであったならば、その正しさは今も変わりません。たとえ圧力を受けてもあきらめてはなりません。あなたの幸せを壊そうとする者に屈してはなりません。自分の疑念を正面から見詰めてください。恐れを克服してください。『だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけません』(ヘブル10:35)。道を踏み外すことなく、あなたの前に繰り広げられる美しい人生に目を向けてください。」

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド
「確信を放棄してはいけない」
『リアホナ』2000年6月号, 38

教育と仕事に精を出してください。主を信頼して信仰を持ってください。そうすれば物事は丸くおさまるでしょう。主は、成し遂げる方法を備えずに戒めをお与えになることはありません。』¹

南アフリカのヨハネスブルクに住むクライド・ロングウェインと妻のジョイスがデートし始めたとき、ロングウェイン兄弟は将来家族を養うことについて不安を感じていました。

「結婚する前、ある総大会で、ある話を聞きました。その内容は、仕分の一についてと、主がどのように必要なものを与えてくださるかについてでした。」ロングウェイン兄弟は当時を思い出して語ります。「仕分の一こそ、わたしが抱いていた経済的な不安を取り除く^{かき}鍵であると分かりました。何があろうと、仕分の一を納めるべきなのです。」

ロングウェイン兄弟は数々の聖句に励まされました。ニーファイ第一書第17章3節もその一つです。「もし人の子

Tithing and Other Offerings

Date _____ Ward or branch _____

Name (last, first, middle). Use the same spelling on all your slips.

Full address _____

| | |
|----------------------|----|
| Tithing | \$ |
| Fast offering | \$ |
| Ward missionary | \$ |
| General missionary | \$ |
| Book of Mormon | \$ |
| Humanitarian aid | \$ |
| Temple construction | \$ |
| Perpetual education | \$ |
| Other (specify) | \$ |
| Total | \$ |

Check(s) \$ _____ Coin \$ _____

Currency \$ _____

into the Church's missionary fund become the property of the Church's sole discretion in its _____

only to _____

PLACE STAMP HERE



仕^{じゅうぶん}分の一を納めることによって
主を第一にするならば、
さらに効果的に
金銭を管理できるようになります。

らが神の戒めを守るならば、神は彼らを養い、強くし、また御自分が命じられたことを成し遂げる手段を与えられる。」

「結婚は戒めであるを知っていたので、きっと主が手段を与えてくださると思いました」とロングウェイン兄弟は言います。

それと同時に、自分の分を果たす必要があるという点にも気づきました。結婚した当初にしていた仕事は収入が低く、家族を養うには十分ではありませんでした。そこでさらに教育を受けることにしました。そのおかげで家計は楽になり、今は自分が選んだ分野で仕事を続けるのを楽しみにしています。

生活様式の変化に対する恐れ

結婚すると、経済面、社交面、感情面、さらには霊的な面など、生活上様々な面に変化が及びます。

マサチューセッツ州ワルポールのエイミー・バイヤリーは結婚によって生じる生活様式の変化を心配していました。けれども自分の心配について、やがて夫となるバートに話すと、重荷は軽くなりました。また、聖文にも頼りました。モーサヤ書第2章41節にはこう書いてあります。「あなたがたは、神の戒めを守る者の祝福された幸福な状態についても考えてほしい。見よ、これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける。そして、もし最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住めるのである。これらのことが真実であることを記憶にとどめ、覚えておきなさい。主なる神がこれを言われたからである。」

「この聖句のおかげで、将来に対する展望が変わりました」と、バイヤリー姉妹は語ります。「生活様式が変わっても、忠実であるならずっと幸福でいられます。また、永遠の家族を持つのは、独身時代に味わった楽しい事柄をすべて合わせたよりもずっと大切なのだと、この聖句から学びました。」

結婚生活において天の御父が助けてくださると、バイヤリー姉妹は信じるようになりました。「神がわたしたちの結婚を認めておられるのを知って、心の中のどんな恐れにも対処できるようになりました。生活様式が変わっても、幸せでいられることが分かったのです。」

目標を変えることに対する恐れ

独身成人の中には、結婚によって仕事や教育面での目標が達成できなくなるのではないかと心配する人もいます。「結婚前、わたしたちは二人とも学校や仕事について心配していました。」ハワイ州ミリラニのテクラ・シェンクは言います。

「結婚したばかりのとき、わたしは自分のやり方で物事を進めたいと思っていました。わたしが学校に通うことを条件に結婚したのです。」

シェンク姉妹は大学を終えられるように祈り、天の御父に助けを願い求めました。ふさわしいときに達成できるという思いを受けましたが、その方法は分かりませんでした。

今は二人とも大学に通っていますが、これからはシェンク姉妹が将来生まれてくる子供たちと家にいられるように、夫であるグレーソンの教育と仕事を優先しようと二人で決めました。「『わたし』から『わたしたち』に見方を変えました」とシェンク姉妹は語ります。

二人は、互いを幸せにしようと努力することによって幸福な結婚生活を送ろうとしてきました。「相手の必要を優先できるようになるのは難しいものです。何をすべきかを告げる促しに耳を傾けられるほど霊的であるように努力する必要があります。」

ジェームズ・E・ファウスト第二副管長は、自分の孫娘たちに偉大な女性になるように語ったメッセージの中でこう述べています。「愛する孫娘たちよ、すべてを一度に上手にこなすことはできません。100パーセントの妻、100パーセントの母になることはできないし、教会の奉仕も、仕事も、社会貢献も、それぞれを同時に100パーセント果たすことはできないのです。」一つ一つを順々に行っていくなら、「そのときになすべき物事を上手に行い、人生における様々な役割を果たせるのです。」²

ブラジル、サンパウロのガブリエル・ピロスと妻のソニア・ロブレイト・ピロスは、将来子供が生まれたときにどうするかについて婚約中に話し合っていました。しかし、結婚して1年後に最初の子供が生まれたとき、「簡単に思えた事柄も、実際に行ってみると、とても大変なことばかりでした。」ピロス姉妹は語ります。「決断を迫られ、心は不安でいっぱいになりました。夫は必要な収入が得られないのではないかと心配し、わたしは将来性のある仕事を失うのを恐れました。」

ピロス夫妻は、『永遠の結婚——生徒用手引き』（アイテム番号35311 300）を再び学び始め、二人でインスティテュートに通い始めました。ピロス兄弟の収入だけで家族を養うのは簡単ではないと二人とも分かっていました。しかし、結婚前に二人で決めたこと——ピロス姉妹が当面は仕事を辞めるという決心——は正しいという確信を得ました。

「わたしたちは信仰を働かせ、聖文にあるように神の御言葉^{みことば}を立証したのです」と姉妹は語ります（2ニーファイ11:3参照）。



主の戒めを守るとき、結婚生活や家庭において大きな幸福を見いだせると確信し、信仰をもって前進することができるのです。

二人は犠牲を払った結果、数々の祝福を受け始めました。そのうちの一つはピロス兄弟が専門的知識や経験が豊かになったことでした。

「今でも試練や恐れに直面しますが、確かに神はわたしたちのそばにいて、祈りにこたえてくださると確信しています」とピロス姉妹は語ります。

「神がわたしたちに下さったのは、^{おく}臆する霊ではなく……」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は語りました。「恐れや不安は神から来るのではないということをはっきりと認識しておかなければなりません。そうした^{しつよう}執拗な、破壊的な力は、真理や義に逆らうためにくるものなのです。恐れは信仰に相反するものです。」³

デートしている相手との関係で、迷いや不安を抱くのは当然のことです。結婚を決めるに当たって、だれもが常に主の導きを願い求めなければなりません。そして、相手との関係にあってふさわしい段階を踏み、主の平安を感じるのです。この平安は、義にかなった選びをするときに主から与えられるものです。そうすれば、結婚生活や家庭において大きな幸福を

見いだせると確信し、信仰をもって前進していくことができます。

使徒パウロは次のように教えています。「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない。」(1コリント11:11) また、こうも書いています。「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」(2テモテ1:7) 結婚に対する恐れを取り除き、信仰と愛に代える努力をすることができますように。■

メリッサ・ハウエルはコロラド州オーロラステーク、オーロラハイランドワードの会員です。

注

1. 「独身の兄弟たちに」『聖徒の道』1988年6月号, 52参照
2. “A Message to My Granddaughters: Becoming ‘Great Women’” *Ensign*, 1986年9月号, 19
3. 「神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく……」『聖徒の道』1985年2, 3月号, 21参照

主イエス・キリストを 信じる信仰を築く



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うよう勧めてください。

扶助協会に所属する祝福——「扶助協会はイエス・キリストと主の贖いに対する姉妹たちの証を強め、キリストのもとに行く決心を強めるためにあるのです。」

主イエス・キリストを信じる信仰を築けるように、扶助協会は、どのような助けを与えていますか。

2ニーファイ25:26——「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し……どこに罪の赦しを求めればよいかを、〔わたしたちと〕わたしたちの子孫に知らせる……。」

大管長 ゴードン・B・ヒンクレ——「数百万の女性がどれほど多くの奇跡的な影響を受けてきたか、想像できる人がいるでしょうか。姉妹たちは知識を増し加え、広い視野を持つようになり、生活に幅ができ、神にかかわる事柄を深く理解するようになりました。」

それは皆、扶助協会の集会で数知れぬレッスンが効果的に教えられ、また姉妹たちがそれを学んできた結果なのです。」「(“Ambitious to Do Good,” *Ensign*, 1992年3月号, 4)

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト——「扶助協会のカリキュラムは基本的な教義に焦点が絞られており、福音を研究し霊性を高める機会を提供してくれます。……すべての姉妹が『覚えられ、神の善い言葉で養われ』る必要があります〔モロナイ6:4〕。教義は皆さんを強め、人生のチャレンジを克服するのに必要な霊性を培ううえで助けとなるでしょう。」「(「天から遣わされている者」『リアホナ』2002年11月号, 111)

中央扶助協会第二副会長 アン・C・ピングリー——「わたしたちも……恐れることなく前進することができます。主の限りない贖いの祝福をそれぞれが感じながら、主へと続く道を見いだすことができるのです。扶助協会から得られるすばらしい祝福の一つは、主への証を持つ者同士のきずなだと、わたしは確信しています。わたしたちが主の贖いの愛が発する光に向かっていつまでも並んで歩めるように祈っています。」「(「主の愛の光に向かって歩む」『リアホナ』2004年11月号, 113)

イエス・キリストのもとへ行く決心を強めるうえで、信仰はどのような役割を果たすでしょうか。

十二使徒定員会 ダリン・H・オックス——「信仰は神の御言葉を聞くことによると、聖文は教えています。〔御言葉は、〕人は永遠の父なる神の子供であると教えています。また聖文は、神の独り子……であるイエス・キリストがどのような御方で、どのような使命を持っていらっしゃるのかについても教えています。……主イエス・キリストへの信仰とは、神がわたしたちを覚え、愛しておられ、また、わたしたちの祈りを聞き、……こたえてくださるといふことへの確信と信頼です。……主イエス・キリストへの信仰は救いと昇栄の扉を開いてくれます。」「(「主イエス・キリストへの信仰」『聖徒の道』1994年7月号, 108, 110参照)

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ——「その順番を覚えてください。(1) 主の僕が語った神の御言葉を読んだり聞いたりする。(2) その御言葉を心に深くしみ込ませる。(3) 心から義に飢え渴く。(4) 福音の律法と儀式、聖約に従順に従う。(5) イエス・キリストが救い主であられることが分かるよう、信仰をもって、声を上げて熱心に祈り、懇願する。……試練はすべてわたしたちのために与えられますが、人生で試練に遭うと、信仰を持つのは難しく、信じるのは難しいように思えるものです。そんなときに平安と希望を与え、理解を助けてくれるのは、主イエス・キリストとその贖いに対する信仰だけです。主がわたしたちに代わって苦しまれたことを信じるようになって初めて、最後まで堪え忍ぶ力が得られるのです。」「(「主イエス・キリストへの信仰を見いだす」『リアホナ』2004年11月号, 72-73) ■



▼ ヨシュア・ブルンナー
—「マスター聖句を
学んでいたときのことを
覚えています。
初めの年に
最初に学んだ聖句を
今でも覚えています。」



▲ ナエーミ・マウフ—
「セミナーをしていると、
聖文を勉強しなくては
という気になります。
ひとりだったら、
あんなにたくさんは
勉強しないでしょう。」



▲ エリザベス・ナイルツ—
「バプテスマを受ける前から
セミナーに行っていました。
セミナーをしていないと
何かが足りないような
気がします。」



▲ ルカ・メルル—
「10代の人同士で
聖文について
話し合うことができます。
セミナー以外の
クラスではそんなこと
あり得ません。」

▲ ミリアム・シェンク—
「もし最初に
大切なことを行い、
それから
ほかのことを行うなら、
すべてがうまくいきます。」



セミナー

オーストリアとスイスのセミナーの生徒は、
仲間とともに福音を学ぶことに
大きな満足を見いだしています。

ジャネット・トーマス
教会機関誌

ヨハネス・マルツルは、また学校に遅刻してしまいました。セミナーから帰る電車があまりにも混雑して、のろのろ運転になってしまったのです。学校まで全速で走りましたが、残念ながら遅れてしまいました。遅刻したときには、毎回、先生から理由を聞かれます。「最初はセミナーに行ったことは言わないようにしていました。寝坊したと答えていたんです。でもあるとき先生が、『どこに行っていたのか白状しなさい』と言ったのです。クラス全員の前でした。学校ではちょうど英語を勉強していたので、英

語で答えるように言われました。級友たちは皆、ぼくが教会員であることを知っていますが、セミナーのことは知りませんでした。そこで、朝5時に起きて、電車で教会に行き、また電車に乗って学校に来るのだと説明しました。するとクラスの皆から『ええっ、信じられない!』と言われました。」

ヨハネスはこう言います。「ぼくはセミナーから力を得ています。学校に行くといろんな友達がいろんな話をするので、朝に霊的な力を得ることはいいことです。」

オーストリアのセミナー

ヨハネスはオーストリア・ザルツブルクステーク、ザルツブルク-フラッハガオワードの会員です。ステークに住む10代の若者は、たいてい週4回早朝セミナーに通って



います。まだ暗くて寒い中、電車に乗って教会に通う生徒もいます。両親が教える家庭では、自宅の居間でセミナーが行われます。

リンツワードのジュリア・グロスは言いました。「母はわたしのセミナーの先生です。わたしはいつもセミナーのレッスンを受けるながら朝食を食べています。毎朝セミナーをしています。セミナーをすると、いい気持ちで一日を始めることができます。元気が出て、楽しくなります。」

ジュリアは妹のカリナと一緒に学んでいます。二人とも、朝食のテーブルで、お母さんから毎朝教えてもらうのが好きです。

ザルツブルクフラハガオワードのベン・シェンクは、セミナーに行

くと何かが違うことに気づきました。「セミナーに行った日は、いつもよりいい日になります。ほんとうに役に立ちます。学校にいるときもセミナーはとても役に立っています。問題が減ったような気がします。セミナーで学ぶ基本は普段の生活にも役立ちます。ほくは初めてセミナーを受ける生徒にはこう言うようにしています。『暗くて、寒くて、顔が火照^{ほて}って、足もとで氷がバリバリ割れる音が聞こえても、セミナーには、行く価値があるよ。ほんとうに役に立つんだから。』」

新しい学年が始まる直前の土曜日には、ザルツブルクステーキの青少年がセミナーの開校式に集まります。開校式ではレッスンもしますが、普段の教会の集会というよりは大きなパーティーといった雰囲気です。なぜ楽



は幸せの源



写真：アムステルダム

しくなるかという、いつもは会うことのできないたくさん
のすばらしい仲間と午後から集まり、夕方までたっぷり一緒に
過ごして夕食を食べたり、ダンスをしたりするからです。

クラーゲンフルトワードのマリー・クレンは、セミナーの
開校式に初めて出た4年前のことを覚えています。「初めて
セミナーに来た人は立つように言われました。『あらまあ、
だれも知らない』と思いました。でもそれからみんなと友達
になりました。」マリーはステーキの青少年に会える機会を書
き出してみました。若人の神殿団体参入、ユースカンファレン
ス、若い女性のキャンプ、「セミナーの土曜日」(訳注——ス
テーク内のセミナー生徒が合同レッスンを受け、一緒に活動
をする)などです。

ウェルズワードのダビド・フックスは、もうすぐセミナーの
初年度を迎えます。人から聞いた情報しかありませんが、セ
ミナーが始まるのを楽しみにしています。「聖句を研究し
たり、伝道の準備をしたりするのが楽しみです。」

リンツ・ウーアファールワードのシュテファニー・カフカも初
めてのセミナーに胸を躍らせています。「聖文の研究を自
分独りでしなくてよくなるので、楽しみにしています。話す仲
間ができるんです。」

スイスのセミナー

お隣のスイスでも、スイス・ベルンステーキのセミナーの
生徒が、開校式に集まっています。ステーキ内の各地から
バーゼルの集会所に来ています。ザルツブルクと同じように、
どこかお祭りのような雰囲気が漂っています。ホールにはダ
ンスのために飾り付けがしてあり、台所では用意されたごち
そうが温められていました。

セミナーの生徒はたいいてい自宅学習とクラスでのレッス
ンを組み合わせて学んでいます。アーラウワードのエステ
ル・ハンセンはセミナーがどんなにすばらしいか語ってい
ます。エステルは小さな村に住んでいます。幸い近所には
たくさんの教会員が住んでいます。8人程度の青少年が週3回、
教師の家に集まっています。また週に1回自宅で勉強し、水
曜日には夕方にセミナーが開かれます。「特に好きなのは、
セミナーのビデオです。ビデオは内容がはっきりしていて、
分かりやすいです」とエステルは語ります。「弟のジェンもセ
ミナーを始めました。弟もセミナーが大切だと感じてい
ます。わたしたちはセミナーに通うことで祝福を受けてい
ます。友達にセミナーのことを話したことがあります。理
解してもらえませんでした。聖書の大切さを分からないので、
読みたいとも思わないようです。わたしがどうして聖書が好
きなのか、友達には理解できないようです。」

ステーキには、幸いにも毎朝セミナーに行っている人もい
ます。プラッテルンワードのレベッカ・ウィーズナーと妹のノエミ
は、自分の家に集まって来る生徒とともにレッスンを受けてい

ます。レベッカが言いました。「朝、セミナーを受ければ、学
んだことを一日中考えることができます。先生はとてもいい模
範を示してくれます。おもしろいし、冗談も楽しいし、退屈す
ることはありません。よく笑い、よく学んでいます。」

さて、バーゼルワードの集会所の裏では、バルンケ家のア
ニカ、サブリーナ、ジャンが、道を隔てた小さな公園で、セミナ
リーの「セミナーの土曜日」が始まるのを今や遅しと待って
います。バルンケ家族はバーゼルワードに引っ越して来たば
かりですが、すでにセミナーに参加し、セミナーが大好き
になっています。3人はお父さんと一緒に自宅で学んでいます。
子供たちは、お父さんがよく聖文を理解しているので、びっく
りすることが度々あります。でも、何よりも好きなのは、一緒に
研究しているときに特別な気持ちになることです。ジャンが言
いました。「学校で御^{みたま}霊を感じるのには難しいですが、セミナ
リーでは、温かい気持ちになります。」アニカが付け加えて言
いました。「その気持ちは言葉では説明できません。聖文を



ただ読んでいただけなら、それほど頻繁に感じられません。
でも研究しているときには、必ず感じるすることができます。」

ビールワードのメリッサ・レーメルも、時々セミナーで感
じる気持ちを話してくれました。「聖霊をととも強く感じます。
なすべきことをしていると感じるのです。」

オーストリアとスイスの若人がセミナーで経験した気持
ちを語る時何度も使う言葉は「幸せ」です。確かに朝早く
起きるのは大変です。寒くて暗い日も多いです。そんな犠牲
を払う価値があるのでしょうか。もちろん、あります。主であり
救い主であるイエス・キリストについて学ぶこと、聖典に書
かれていることを学ぶこ
とは、彼らの幸せの源と
なっています。オースト
リアとスイスの若人は、
そのような幸せを選ん
でいるのです。■





▲ エリッヒ・スツシ——
「セミナーでいちばん楽しかったのは、聖句探し競争です。
ボードー・ルカウエル——
「独りより、だれかと一緒に学ぶ方がずっといいです。」



▲ サラ・シュナイダー——
「妹は今年からセミナーを始めて、わたしと一緒に勉強しています。妹はこんなふうに学べることをとても喜んでいます。」

▼ トマス・フックス——
「常に生活に役立つことを学んでいます。楽しいです。ぼくたちは、いい先生に恵まれています。」



▲ アライン・フォン・アルメン——
「友達がいるのでクラスで学ぶのが好きです。自分で勉強するのも好きです。どちらも好きです。」



下——スイスのセミナーの生徒たち、バーゼルの集会所の外で。
27ページ——オーストリアのセミナーの生徒たち、ザルツブルク-フラッハガオワードに集う。



◀ シャンタル・ブゾタ——
「セミナーを受けると元気になります。聖文を読んだ後はすがすがしい気持ちになります。」



前世



回復された福音の基本的信条と 末日聖徒イエス・キリスト教会特有の教義を 説明するシリーズ

おもなキリスト教会をすべて調べてみても、末日聖徒イエス・キリスト教会以外に、人類が父なる神とその御子イエス・キリストとともに前世で存在していたことを教えている教会はありません。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長(1876-1972年)は、次のように書いています。「不思議なことに、人には霊があって死んでも霊は不滅の存在として生き続けることを信じる人が多いのに、霊は人が現世に生まれてくるまで存在しないと彼らは信じている。」¹

生命の神秘を解く

十二使徒定員会の会長代理であるボイド・K・パッカー長老は、この教義に関して、次のような意味深い説教を行っています。「前世の教義を知らずして、人の生命の意味を理解することはできません。……前世の教義を理解して初めて、論理に一貫性が生まれ、意味を成すのです。」²

前世への理解がなければ、天の御父との関係を正しく理解することも、この世の生涯の意味や神の定められた行く末について完全に理解することもできません。パッカー長老は次のように言っています。「前世に関するこの教義は、古代のキリスト教徒にも知られていました。この教義は500年近く教えられたのですが、その後、すでに背教という暗黒時代に入っていた聖職者たちによって異端の教義として拒まれるようになりました。この教義を一度拒むと、……聖職者たちには生命の神

秘を解き明かすことがまったくできなくなってしまう。それはまるで、長さの足りない糸で真珠の首飾りをつなげようとするようなものでした。そのまま、すべてをつなぎ合わせるなど決してできないのです。』³



人は永遠である

主が預言者ジョセフ・スミスを通じて神聖な真理を回復されたとき、前世に関する知識も、天の御父の救いの計画を理解するうえで、非常に重要な要素になってきました。主は次のように啓示されています。「人もまた初めに神とともにいた。英知すなわち真理の光は、創造されることも、作られることもなく、実にそうすることのできないものである。」(教義と聖約93:29) つまり、わたしたちの英知が常に存在していたということを考えると、わたしたちには初めがなかったのです。しかし、前世のはるか昔のある時点で、人のために霊体が創造され、文字どおり、天の両親の霊の息子、娘となったのです。⁴

わたしたちは神の霊の子供であり、この世の誕生に先立って神とともに生活しており、神のようになることを切に望みました。このことを知っていると、永遠の御父との関係が明らかになります。ジョセフ・スミスはこう教えています。「神御自身が、……はるかに英知に満ちた御方であったために、律法を定めることが適切であると考えられた。それによって、[神の子供たちが]御自身のように成長する機会にあずかるようにするためである。』⁵ 成長に必要な段階というのは、御父のもとを去り、心に忘却の幕を引いて、信仰によって歩み、神の戒めに従順であることを学ぶというものでした。

わたしたちの知っていること

わたしたちが地上に来た目的が、試練を受け、信仰によって歩むということだったため、主は前世の詳細について多くを啓示されてはいません。しかしながら、わたしたちがこの地上に存在する目的を達成するためには、これまで啓示されてきたことだけでも十分なのです。人が前世でどのような存在だったかについて、以下のような事実が啓示されています。

● 文字どおり神の霊の子供である。そのため、神のようになる可能性を秘めている(ローマ8:16-17;教義と聖約93:33-34参照)。

前世で、わたしたちは
イエス・キリストに
従うことを選び、
イエスは選ばれて
救い主として
地上に降臨される
ことになった。

● 天上の大会議に参加して、わたしたちの救いのために用意された御父の計画を聞いた。わたしたちはイエス・キリストに従う方を選び、イエスは選ばれて救い主、贖い主として地上に降臨されることになった。わたしたちはこのすばらしい機会が与えられることに喜び呼ばわった(ヨブ38:7;アブラハム3:24-28参照)。

● ルシフェルは「神の前で権威を持っていた神の一天使」であったが(教義と聖約76:25)、「わたしは全人類を贖って、一人も失われぬようにしましょう」と言った(モーセ4:1)。しかし、実際は、神から神御自身の力と栄光を授けられることを願ったのである。そして、選択の自由を損なうことによって、現世における経験の

条件を変えることを求めた。選択の自由がなければ、実際、天の御父のようになることは不可能であった。そのため、この提案は、神と神の3分の2の子供たちによって退けられた。すると、ルシフェルはこれに反抗して、天で戦いが起こった。言葉と霊的な対立による戦いである。その結果、ルシフェルは、彼に従っていた「天の衆群の三分の一」とともに追い出された(教義と聖約29:36)。ルシフェルはサタンという名で呼ばれるようになり、従う者らとともに、現在、邪悪な決意の下に、人を滅ぼすために暗躍しているのである(黙示12:7-9;教義と聖約29:36-39;モーセ4:1-4参照)。

● わたしたちは前世で存在していたという記憶を失った状態で地上に来たが、それぞれ力と才能を持ってやって来た。同時に、努力して克服しなければならない弱さも携えて来た(エテル12:27;教義と聖約104:17;138:55-56;アブラハム3:23参照)。

● この地上での生活は、わたしたちにとっては初めでも終わりでもない。成長を続けていくための試練でもあり、また必須の段階でもある。この試練にどうこたえるかで永遠の将来が決まっていくのである(アブラハム3:25-26参照)。

注

1. 『救いの教義』、ブルース・R・マッコンキー編、全3巻(1954-1956年)、第1巻、55
2. 『人生の謎』『聖徒の道』1984年1月号、31参照
3. 『人生の謎』『聖徒の道』1984年1月号、29参照
4. 『家族——世界への宣言』『リアホナ』2004年10月号、49参照
5. *History of the Church*、第6巻、312

2度救



七十人
W・ロルフ・カー

迅速に行動して、
2度も命を救ってくれた
父への感謝は、
生涯消えうせることは
ないでしょう。

わたしは幼いころ、父に命を救ってもらいました。その出来事を自身自身の記憶として覚えているわけでは
ありませんが、家族の中で幾度となく耳にする機会がありました。

当時、わたしは2歳で、兄は4歳でした。その日、兄とわたしは父と一緒に農場にいました。父は牛にえさをやっていました。兄とわたし

は、父の知らぬ間に、父の目の届かない所へ行ってしまいました。父は、顔をこわばらせた兄が息を切らして走って来たとき、初めてそのことに気づきました。兄は恐怖のあまりほとんど話すことができませんでした。それでも必死の思いでこのように言ったのです。「ロルフが落ちた! ロルフが落ちた!」幸いにも、父は兄が「ロルフが用水路に落ちた」と言いたいのだと分かりました。

父は用水路に向かって走りました。わたしは土手から滑り落ち、用水路の水に流されていました。父は用水路沿いに走りました。そして、激しい水の流れにもまれる赤いセーターを見つけると、飛び込



5歳のころ(左)

われで

んで引っぱり上げてくれたのです。それから父は応急処置をして、わたしが息を吹き返すのを確認しました。

あのとき機転を利かせて父に知らせてくれた兄へ、わたしは永遠に感謝し続けるでしょう。また、迅速に行動して命を救ってくれた父への感謝は、生涯消えうせることはないでしょう。

霊的な危険からも

月日が流れ、父はもう一度わたしを救ってくれました。そのときわたしは、肉体的な危険ではなく、霊的な危険にさらされていました。

高校時代、わたしはスポーツ、特にフットボールと野球に夢中でした。3年生の終わりに行われる野球のオールスターゲームの選手に選ばれました。その試合が終わって、学年も終わろうとしていたところに、今度は地元の野球チームの選手として試合に出場するよう誘われました。もちろんプロのチームでもセミプロのチームでもありません。しかし、誘いを受けたことで、わたしは内心得意になっていました。一つだけ問題だったのは、ほとんどの試合が日曜日の午後に行われるということでした。

わたしは次のような合理化をしました。「教会の集会は朝だから、午後からなら野球はできるはずだ。毎週の日曜日、午前中は集会に出席し、日曜学校のクラスを教え、午後から試合に出ればいい。」

それから、父のところへ行き、野球チームから誘いがあったことを、そして、自分がどうしようと思っているかを話しま



父

した。当時、父はステーク会長を務めていましたが、「安息日に野球なんてだめだ」とは言いませんでした。賢明にも、父は自分の望みを押しつけるのではなく、ただこう言ったのです。「そうか。でも、最終的な答えを出す前に、その決定が日曜学校の生徒にどんな影響を与えるかを考えてほしい。」

それ以上の言葉は必要ありませんでした。もうその時点で、どうすればよいのかがはっきりと分かりました。わたし

はチームへの誘いを断りました。そのとき以来、一度も野球の試合に出たことはありません。その代わりに、何年もの間、教会のソフトボールチームでプレーを楽しみました。日曜日に試合をすることもありませんでした。

あの難しい決定を下すに当たり、父が良いアドバイスをくれたことに感謝しています。父のおかげで、その選択の重さがよく理解できました。選択の結果が自分自身だけでなく周囲の人にも大きな影響を及ぼすということが理解できたのです。そのときの決定は、後に、伝道に出るという選択をするための土台になりました。

フットボールと縁を切る

わたしは前々から20歳になったら宣教師になろうと計画していました。それが当時の若人が伝道に出る年齢でした。

伝道に出るのを
さらにもう1年
延期することは
できないと
コーチに告げました。
フットボールに熱心に
取り組んできましたが、
チームに別れを告げ、
主に仕えるために
旅立ったのです。

ユタ州立大学で2年間、フットボールをした後で、わたしは難しい決断を迫られました。当時は、伝道後にフットボールを続ける帰還宣教師はめったにいませんでした。わたしはそれまで、とても熱心にフットボールの練習に励んできましたし、試合も大好きでした。数か月伝道を送り先にして、あと1シーズン試合に出場し、それから伝道に出ることにしました。そのシーズンが終わるころ、練習の成果が実り、翌年の先発選手としてクォーターバックのポジションを任されることになりました。

あれほど努力してきたわたしがやめると言ったとき、コーチは驚き、落胆しました。コーチは最終学年まで続けるようにと勧めました。そのすばらしい機会を手放すことが理解できないようでした。コーチの意見と、そう勧める理由を聞いてはみましたが、伝道に出るのを

う1年延期することはできないと告げました。もう1年延期したら、伝道に出る機会を逃すことになるのではないかと恐れたのです。わたしはフットボールにほんとうに熱心に取り組んできました。しかし、チームに別れを告げ、主に仕えるためにイギリスへと旅立ったのです。

わたしはその決定を一度も悔やんだことがありません。伝道中非常に多くのことを学びました。人が福音を受け入れる姿を目の当たりにするのは、すばらしい経験でした。そのような経験は、いろいろな点で、その後の人生を形作るものとなりました。伝道によって、今のわたしがあるようなものです。伝道は、フットボールとは比較にならないほど大きな影響を与えてくれました。

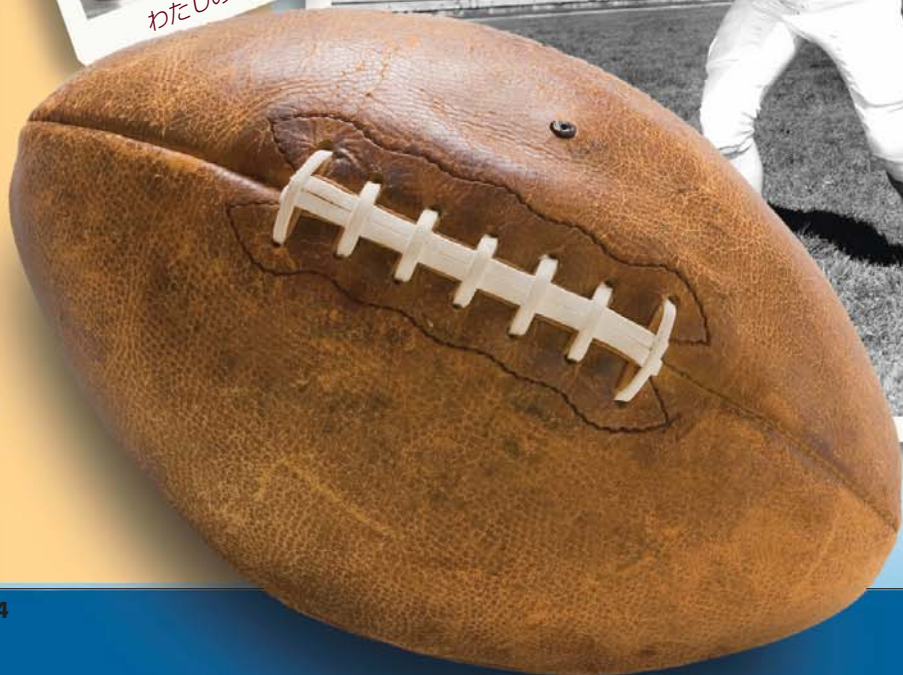
しかし、結果的に、伝道から帰ってもう一度フットボールをする機会に恵まれました。予想

に反して、4年時には選手として出場し、伝道前には夢にも思っていなかったほどの成績を上げることができました。もし伝道に出る時期をもう1年延ばしていたら、あるいは伝道をあきらめていたら、恐らく手にすることのできなかったようなすばらしい機会が与えられたのです。

高校卒業後、野球をするのではなく、安息日(きよ)を聖く過ごすことを決意しました。そのことが土台となり、フットボールをやめて伝道に出ることができました。野球やフットボールをやめるのは容易なことではありませんでしたが、正しい選択ができたことに感謝しています。そのような決定が基となって、若いころに人生の優先順位が定まり、それが、神殿結婚や幸福な生活へ導いてくれたのです。

父が命を2度救ってくれたことに感謝しています。1度目は用水路の泥水の中から、2度目はこの世のものを追いかけるといふ誘惑の沼から救ってくれたのです。■

ユタ州立大学でフットボールをする



生ける水



イエス・キリストの福音という生ける水をいつも吸い上げていきましょう。
(ヨハネ4:7-14参照)

質疑応答

「友人は教会になじめないと感じています。
教会で歓迎されていると感じてもらうにはどうしたらよいでしょうか。」

『リアホナ』からの提案

教会になじめないと感じている理由が分かれば、友人をいっそうよく助けることができます。もし新しい環境に慣れないでいるのなら、少し時間がかかるかもしれませんが、友情を示し続けることです。歓迎されていると感じるように、あなたやほかの会員が助けるようにしてください。

けれども、もしその友人が、自分はふさわしくないと感じていたり、教会でだれかに感情を害されたりしたために、なじめないと感じているのなら、そのような理由を知ることが、助ける方法を見いだすうえで役立つでしょう。ふさわしさに関係なく、だれでも教会に出席することができます。教会員は皆、不完全です。より善い人となるように教会に出席するのです。もし友人がふさわしくないと感じているなら、監督または支部長と話すように勧めてください。

残念なことに、人の感情を害する教会員もいます。もしだれかが友人の感情を害したのなら、自分を傷つけた人を赦すことから得られる平安について教えてあげることができます。また、友人の心が和らぐように祈ることもできます。

友人の状況がどうであれ、黄金律に従い、あなたがしてほしいと望むことは、友人にもその

わたしたちが
教会に出席すると、
主は喜ばれます。
ですから、
友人が歓迎されている
と感じることが大切です。

友人をワードまたは支部の
会員に紹介し、教会の活動に
誘ってください。

見かけたらあいさつをしたり、
レッスンや集会で
一緒に座ったりして、
友人が歓迎されている
と感じられるような
ささやかなことを
行ってください。

教会で御霊みたまを感じられる
ように努力するなら、
教会が楽しくなる
と友人に告げてください。

友人が
感情を害されたのなら、
赦す必要があることを
理解できるように
助けてください。

とおりにしましょう(マタイ7:12参照)。もしあなたが教会になじめないと感じるとしたら、歓迎されていると感じるようになるには、どのようなことが助けになるのでしょうか。だれかに隣に座ってもらいたいと思いますか。教会の中を案内してもらいたいのですか。あいさつをしてほしいですか。友人が必要としているのは、こうしたささやかなことかもしれません。

あなたの友人が特別な歓迎を必要としていることをワードまたは支部の人たちに知らせてください。友人を監督や支部長、若い女性の指導者や日曜学校の教師、ほかの友人などに紹介してください。関心事を分かち合えるかもしれません。また、あなたが友人に教会の中を案内したり、集会や今度の活動について説明したりするのを彼らは助けてくれるでしょう。あなたやほかの教会員が仲間に入れると、友人は歓迎されていると感じ始めるでしょう。

このような努力は大切です。あなたの友人が「自分はいるべき場所にいる」と感じるからです。教会は主の教会であり、主は、教会で御自身を礼拝し、御自身について学ぶように、すべての人を招いておられるのです(教義と聖約59:9-10参照)。

教会員は、「互いに和合し、愛し合って結ばれた心を」持つように教えられています(モー



写真/デビッド・ストーカー、写真はイメージです

サヤ18:21)。友人が歓迎されていると感じるように教会員とともに助けるとき、あなたは、友人が主の愛を感じるように助けていることになります。キリストの愛から引き離すものは何もないことを友人に思い起こさせてください(ローマ8:35, 38-39参照)。なじめないという気持ちがあったとしても、キリストの愛から引き離されることはないのです。友人を歓迎しようとあなたが努力し、友人の方でも教会で主を礼拝しようと努めるとき、友人は御霊と主の愛を感じられるようになり、自分が教会の一員であることが分かるようになるでしょう。

読者からの提案



わたしならその友人のために祈るだけでなく、スポーツやディポーショナルなどの活動に誘って親睦を深めます。そのようにすると、彼女は教会になじめたと感じることでしょう。

トンガ・ヌクアロファ南ステーク
ハーティロ第3ワード
ケサイア・ルーペ・マツ, 19歳

その友達に、あなたやほかの友達と一緒に過ごすように誘う必要があると思いま

す。わたしは何度も引っ越し、新しい場所に全然なじめないと感じたことがたくさんありました。でも、いろいろな人が友達になろうとしてくれると、教会や学校、ミューチャルなど、どこにいても、打ち解けることができましたと感じました。ですから、あなたやあなたの友達とともに過ごすよう、彼女を誘ってみてください。そうすれば、彼女は霊的にも成長し、教会の活動に積極的に参加するようになるでしょう。

ユタ州シラキュースステーク
センテニアルパークワード
ネルセン・E・ウィット, 15歳

友人がそのように感じるのはごく自然なことです。たぶん末日聖徒の礼拝行事に慣れていないからです。あなたは教会に対する証^{あかし}を持つ友人として、すぐに行動し、彼女が問題を乗り越えるのを助けてあげなくてはなりません。次のようなアイデアを試してみてください。(1)友人といつでも握手し集会で隣に座るように、会員たちに頼んでおく。(2)教会で友達ができるように助ける。(3)彼女が出席するクラスの教師に歓迎してもらおう。(4)彼女が御霊を感じるように祈る。

ナイジェリア・ポートハーコート伝道部
クリスチャン・オイエ長老, 23歳



彼女のために祈ってください。どう働きかけるべきか主に助言を求めてください。彼女が教会にいるときはずっと一緒にいるようにしたらどうでしょうか。土曜には青少年と集まり、堅苦しくない雰囲気を知り合えるようにしたいと思います。

イタリア・サルデーニャ地方部, クォーツ支部
ベアトリーチェ・トロワ, 18歳



一つ大切なことは、教会の活動にもっと頻繁に誘うことです。また、友達に彼女を受け入れるように頼み、彼女が教会で歓迎されていると感じられるよう天の御父に祈る

ことです。

フランス・ニースステーク, サロンワード
ジャスティン・ダセラ, 13歳

教会の活動は、すべての会員と求道者が心地よく感じ、親しくなれるように助けるためにあります。活動に参加すれば、もっと多くの友達ができるし、教会の一員だと感じるでしょう。親友として彼女に接し、あなたの友達に紹介してください。そうすれば、あなたの友達の輪も広がるでしょう。

フィリピン・オルモックステーク, アルブエラワード
グレッチェン・モンティカルボ, 18歳



あなたの証や模範、愛を通して友人が御霊を感じるように、彼女のために祈ってください。福音が生活にもたらす喜びについて話してください。彼女は教会について知りたい



わたしたち会員は
人が改心の
プロセスを

踏むのを
助けなければなりません。
それには、
自分のワードや支部を、
一人も見ごしに
される人がなく、
だれもが歓迎を受けて
和やかな気持ちになれる、
親しみのある場所に
することです。
……温かさや
親しみやすさは、
キリストが持っておられた
特質であることを、
子供たちに、若人に、
そして大人に
教えてください。

十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード
「交わりの手」
『聖徒の道』1989年2月号, 31

と望み、受け入れられていると感じるようになるでしょう。

タヒチ・ラロマトイステーク, ヒブ支部
バネッサ・チューブーロートア, 19歳

わたしなら、彼女と話して、受け入れられていないと感じる理由を聞くでしょう。また、彼女を助けるにはどうしたらよいか分かるように、御霊の導きを天の御父に祈り求めるでしょう。天の御父はわたしたちを愛しておられます。天の御父に心から頼るとき、御父のすばらしい愛を心に感じます。そして、この愛は、受け入れられていないのでは、という恐れを乗り越える力を得させてくれるのです。

ニカラグア・マタガルパ地方部, シウダーダリオ支部
マイリング・フィデリーナ・バーレイ, 19歳

わたしだったら、彼女に手を差し伸べるために特別な努力をします。一人でも友達がいれば、彼女は教会で受け入れられていると感じるようになるでしょう。そして、わたしたち二人を助けてくださるよう天の御父に祈ることを彼女に勧め、証を伝えます。

エルサルバドル・アティクィザヤステーク
スクレワード

エリカ・スザーナ・フィグロア・ヘレラ, 19歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

あなたの意見を聞かせてください

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対する意見を、氏名、生年月日、住所、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真(両親が書いた、写真掲載の許諾書も同封してください)を添えて、郵送か電子メールでお送りください。

あて先——Questions & Answers 3/06
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メールアドレス——
cur-liahona-imag@ldschurch.org
2006年3月15日必着で送付してください。

質問

「友人の女の子はひどく落ち込んでいるようで、自殺さえ考えているのではないかと心配です。どうしたらよいでしょう。」 ■



世にあって 世のものとならず

七十人
クエンティン・L・クック

ソドムとゴモラは象徴的にまた実際に世の中の罪悪を表しています。主はアブラハムに御姿を現し、ソドムとゴモラに住んでいる人々を指して「その罪は非常に重い」と言われました(創世18:20)。彼らは非常に罪深く、また義人の数がきわめて少なかったため、神は低地に築かれたこの二つの町を滅ぼされました。現在の偉大な預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語りました。「ソドムとゴモラにあったすべての罪が今の社会にはびこっています。若人がこれほど大きなチャレンジに直面したことはありませんでした。現代ほど、悪があからさまに姿を見せたことはありませんでした。」¹

生活から悪を追い出すことは、現在のわたしたちにとって大変重要な課題となってきました。なぜなら、警戒していないと、主が非難しておられる多くの悪が家庭に入り込んで来るからです。人生で最も難しい試しは、世にあって世のものとならないことです(ヨハネ15:19参照)。² 永遠の目的を達成するにはこの世で生活しなければならないと、福音ははっきり教えています。試しを受けて、大いなる王国にふさわしい者と認められる必要があります(2ニーファイ2:11;教義と聖約101:78参照)。わたしたちは、アブラハムのように天幕を張って、「主に祭壇」を築くべきであって(創世13:18)、ロトのように「天幕をソドムに」向けて張ってはならないのです(創世13:12)。

世の光となる

1969年の初め、カリフォルニア州サンフランシスコでは「フラワーチルドレン」(訳注——何の規則にも縛られず自然が意図するままに自



積極的に
世に貢献することと、
世の罪に
染まらないようにすること
のバランスは
どう取ったら
よいでしょうか。
わたしたちは、
アブラハムがしたように、
正しい方向に
天幕を張らなければ
なりません。



ブリガム・ヤング 大管長はこう 語りました。

「数学であれ、
音楽であれ、
あらゆる科学や
芸術の分野で
成し遂げられた事柄、
洗練された美、
役に立つ技術はどれも、
聖徒たちが
利用するために
あるのです。」

由に生きることを主張した人々の時代が絶頂期を迎えていました。湾岸地区には薬物使用とあらゆる乱交と罪を求める人が吸い寄せられました。心配した一人のステーキ会長は、末日聖徒は湾岸地区にとどまるべきか教会の指導者に問い合わせました。この問題の対応を任されたのは、当時十二使徒定員会の先任使徒の一人であったハロルド・B・リー長老(1899-1973年)です。リー長老は地元の神権指導者と会い、もし会員が同地を離れるべきだとしたら、主はカリフォルニア州オークランド神殿を建てるようお命じにはならなかったと語りました。リー長老は会員たちにこう勧告しました。「心と家庭にシオンを築き、地域住民の光となり、神殿の儀式と神殿で学んだ原則に集中しなさい。」³

世を避けることはできません。隠遁者いんとんしゃのような生活が答えではないのです。⁴ 世の中をより良くするために貢献することは、わたしたちの努力目標の一つであり、それはまた才能を伸ばすために欠かせないことでもあります。ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)はこう語りました。「数学であれ、音楽であれ、あらゆる科学や芸術の分野で成し遂げられた事柄、洗練された美、役に立つ技術はどれも、聖徒たちが利用するためにあるのです。」⁵

スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は、次のように語って、より多くを成し遂げるよう会員に勧告しました。「自分自身について、人生について、また神についてどう思っているかが、そのまま各自の美点や特質となって反映されることを、わたしたちは認識する必要があります。」⁶

この勧告に従うために、会員は積極的に世の中とかかわる必要があります。では、積極的に世に貢献することと、世の罪に染まらないようにすることのバランスはどう取ったらよいでしょうか(教義と聖約25:10;59:9参照)。ここで非常に大切な原則が二つあります。

1. あなたが熱心な末日聖徒であることを知らせる

わたしは社会に出て間もなく、このことの大



切さを学びました。スタンフォード大学法科大学院を卒業後、ある法律事務所の採用試験を受けました。その法律事務所に教会員はいませんが、人格と能力において優れた弁護士が集まっていました。午前中の面接が終わると、代表弁護士と二人の弁護士から昼食に招待されました。代表弁護士から、食前にアルコール飲料を勧められました。しばらくすると、今度はワインを勧められました。いずれの誘いも断りました。2度目に断ったときに、わたしは熱心な末日聖徒であって、アルコール飲料を飲まないことを伝えました。

その法律事務所から採用の通知が来ました。数か月後、アルコール飲料を勧めたのは採否を決めるための一つのテストだったことを代表弁護士から聞かされました。わたしは末日聖徒の宣教師として働いたことを履歴書に記しておきました。それに気づいた代表弁護士は、わたしが教会の教えに忠実だったら採用しようと心に決めていました。それが人格と誠実さを表す大切な事柄だと考えていたのです。

わたしはサンフランシスコに数年

暮らしました。その間に知り合った教会員の中に、末日聖徒であることを職場で明かそうとしない人たちがいました。彼らは常に、この世と妥協する方向に引っ張られていました。もし信念を率直に表明していたら、そのような状態を避けることができたはずですが。象徴的に言えば、彼らはソドムの方に向けて天幕を張ったのです(創世13:12参照)。

2. 信じている事柄について確信し、信念に従って生きる

「この世の一時的で邪悪なものを追いかけること」⁷と、「世の中で流行している破滅的な哲学や行い」⁸を私生活の中で避けてください。

教会員を軽蔑した次のような意見が述べられることが時折あります。「教会員はまるで羊のように指導者の指示を待っている。なぜ自分で考えられないのだろうか。」これはもともとらしく聞こえるかもしれませんが、事実を歪曲しています。実際はこうです。忠実な末日聖徒は、聖文と生ける預言者の勧告の中にある教義と原則を、慎重に、祈りの気持ちで研究し、その後で、聖霊から確認の証を得ようとしているのです。末日聖徒は深刻な過ちを一つ一つ自分で経験してみる必要がありません。何が正しく、何が間違いかを知っているのです。生き方について何度も決断し直す必要がありません。先人が人生で経験した様々なことから、また、天の御父の教えや、御父の油注がれた僕たちの教えから恩恵を得ています。末日聖徒は誘惑に背を向けることができるのです。

選択を避けることはできません。

福音の教義と原則を知っていれば、賢明な決断を下すことができます。清い生活を送っていれば、御霊が導いてくれます。こうして、わたしたちは象徴的に、神殿に向けて天幕を張って(創世13:18参照)、天幕を主と交わした聖約に向けて張って、世にあって世のものとならずにいることができるのです。■

注

1. 「時満ちる時代に生きる」『リアホナ』2002年1月号, 6
2. L・トム・ペリー「世にあって」『聖徒の道』1988年6月号, 13-15参照
3. 集会での個人的なメモ。教義と聖約115:5; ハロルド・B・リー“Your Light to Be a Standard unto the Nations,” *Ensign*, 1973年8月号, 3-4も参照
4. ゴードン・B・ヒンクレー「ボールを落とさないように」『聖徒の道』1995年1月号, 56参照
5. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』216参照
6. 「福音と芸術」『聖徒の道』1978年4月号, 5参照
7. C・リチャード・チデスター“Worldly, Worldliness” ダニエル・H・ラドロ編, *Encyclopedia of Mormonism*, 全5巻(1992年), 第4巻, 1587。アルマ4:8も参照
8. ニール・A・マックスウェル「わたしが勝利を得たと同様に勝利を得なさい」『聖徒の道』1987年7月号, 77参照。教義と聖約121:34-35も参照



教会機関誌を使

レッスンの準備に何か役立つものはないかと思っている人はいませんか。

最良の資料が、すでに皆さんの身近にあります。

ドン・L・サール

教会機関誌

皆さんが教えている子供たちや若い男性・若い女性たちは、不道徳な生活様式をあおる大人やメディアに満ちた社会で暮らしています。すなわち、結婚は成り行き次第、薬物こそ問題を解決する特效薬、手段はともあれお金を得ることが人生の成功、といった風潮にさらされているのです。

青少年があらゆる悪に直面しながらその悪に染まらないようにするために、皆さんはどのように青少年を導けるでしょうか。世にあって世のものとならないようにするために、どう教えたらよいのでしょうか。

この原則を教えるのにふさわしい聖句が幾つもあります。例えば、教義と聖約第133章5節には、「バビロンから出なさい。主の器を担う者たちよ、清くありなさい」と記されています。皆さんは「すべての聖文を自分たちに当てはめ」ることによって(1ニーファイ19:23)、子供や生徒たちに、原則を自分の生活に当てはめる方法を理解させることができるでしょうか。

それには、聖文の中のある話が役に立つかもしれません。ポテパルの妻から逃げたヨセフの話は良い例です(創世39:1-20参照)。しかし、15歳の生徒は「何千年も前の出来事を持ち出して、今のほくに何の意味があるの?」と聞いてくるかもしれません。

そのようなときに、聖文の中で教えられている原則を現代にどう応用できるかを明らかにしてくれる話や資料をどこに求めたらよいのでしょうか。

身近にある教え

皆さんは今、レッスンの補足資料として最良の書を読んでいるのです。毎月出版される教会機関誌は、福音を土台とした教会承認の資料として、教えるうえで役立つ情報を提供し続けています。

今月号の『リアホナ』から二つの例を見ましょう。

七十人のクエンティン・L・クック長老は、「世にあって世のものとならず」(39ページ)という記事の中で、若いときに経

験した就職試験を受けたときのことに触れています。面接をした雇用主は、クック兄弟が末日聖徒であることを知って、昼食時に酒とワインを勧めて高潔さを試そうとしたそうです。自らの標準を下げてまでも点数を稼ごうとする人物かどうかを確かめたかったのです。これは多くの青少年が直面する試しでもあります。

恐らく、皆さんも同じような経験をしたことがあると思います。もしそうであれば、それを話すことは、聞く人の理解の目を開く良い方法となります。つまり、日々の生活の中で道徳的な標準を固く守るならば、最終的には勝利者となれることを理解させられるのです。それが真実であると、皆さんの話を聞いた人たちは分かります。なぜなら皆さんのことを個人的に知っているからです。

クック長老の話は、今年度の福音の教義クラス教師用手引きの第8課「邪悪な世にあり義のうちに生きる」を教える際の参考資料として活用できます。教会機関誌に掲載される記事の中には、日曜学校の教師用手引きや『歴代大管長の教え』に収められているレッスンテーマに即したものがあります。また特定のレッスンに関連があるか否かは別として、どの記事も霊的な原則を理解するのに大いに助けになります。記事を読んでどの原則が採り上げられているかが分かると、次に「すべての聖文を自分たちに当てはめ」るためにその記事がどう役立つかを、聖霊が教えてください。

『リアホナ』の最初のページの「今月号に採り上げられているテーマ」を見れば、その月に採り上げられている霊的なテーマを知ることができます。

簡潔なレッスンの計画

教会機関誌に掲載されている記事を家庭の夕べのレッスンに利用したい場合、どうすればよいでしょうか。クック長老の記事を活用して次のようなレッスンの計画を作ることもできます。

- 原則——様々な悪に囲まれた世の中に生きるわたしたちは、主の標準に従って生きる必要がある。

- 聖句——創世39:1-20; ヨシユア24:15, 24; ヨハネ15:14, 18-19

って教える

● 関連した話——クック長老は次のように教えている。「わたしたちは福音の標準に反するような問題にいつ遭遇するか分からないので、福音の標準を固く守るという決心をしておくことが大切である。」また、テーマに関連した話を自分の経験から話すのも良いでしょう。以前、映画を見に行き、福音の標準にそぐわない内容と分かって、映画館を出て来たことはないでしょうか。あるいは、映画館にいたのを友達に見られて、後日「モルモンがあんな映画を見るなんて思わなかった」と言われ、もっと良い選択をすればよかったと思った経験があるかもしれません。皆さんが実際に経験して学んだことを話して聞かせると、子供や青少年は、大人も自分たちと同じような経験をしてきたのだということが分かります。あるいは、子供たちの中には皆に紹介するのに適した経験をしている人がいるかもしれません。

そのほかの補足資料

教会機関誌に載っている個人的な経験談は、レッスンの要点を補足するのに役立つことがよくあります。例えば、「わたしは日曜学校を選びました」(45ページ)という話は、クック長老が採り上げた原則に関連しています。ある女性が、日曜日に教会に行くことを選択したことによって、その日の日曜学校のレッスンで扱われた題材が翌日の学校の試験に大いに役に立つという経験をしました。

福音を教えるに当たって、参考になる資料はいろいろあります。聖典、大会説教(説教

の中で紹介される実話も含む。各総大会の「指導者の言葉」参照)、教会承認のビデオ、テキスト、あるいは教会公式ホームページ(www.lds.org)などです。しかし、家庭や教会でレッスンをするのに役立つ記事や話を満載した大切な教材が毎月皆さんの手もとに届いています。それが、皆さんの今読んでいる教会機関誌『リアホナ』なのです。■

TOPICS IN THIS ISSUE

| | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| F=The Friend | Joy, 26, F12 |
| Adversity, 2, 44 | Marriage, 16, 20 |
| Apostles, F10 | Missionary work, 32 |
| Church membership, 8, 36 | Old Testament, 39 |
| Courage, 20, 39 | Pioneers, 2 |
| Covenant, 10, 16 | Plan of salvation, 30, F4, F8 |
| Disabilities, F14 | Prayer, F6 |
| Endurance, 2 | Premortality, 30 |
| Example, 8 | Primary, F4 |
| Faith, 2, 25, F2 | Protection, 32, F2 |
| Family history, 10 | Relief Society, 25 |
| Family home evening, 1 | Sabbath, 32, 44 |
| Fellowship, 36 | Scripture study, F11 |
| Friendship, 36, F14 | Seminary, 26 |
| Healing, 44 | Sunday School, 42, 44 |
| Home teaching, 7 | Teaching, 1, 42 |
| Inspiration, 44 | Temples and temple work, 10, 16 |
| Integrity, 39 | Visiting teaching, 25 |
| Jesus Christ, 2, 25, 35, F2, F4 | Young adults, 10 |



© 2014 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, Salt Lake City, Utah. All rights reserved.



サンドイッチショップへ導かれて

クリス・L・クーパー

数年前の夏のことです。わたしたち家族は、旅行で出かけたユタから合衆国東海岸の我が家へ帰っている途中でした。ミズーリで車のエンジンの調子がおかしくなり始め、テネシーに入るころにはかなり悪化してきました。結局、その夜遅く、南東部の都市チャタヌーガから少し離れた坂を登る途中でエンジンは動かなくなりました。

暗闇くらやみの中、何ができるだろうかと考えていたとき、これは信仰の祈りを通して家族全員が一致できる絶好の機会だということに気づきました。妻とわたしは4人の子供たちをなだめ、祈りによって信仰を働かせるように言いました。

祈り終わるとすぐにエンジンがかかり、わたしたちはまた坂道を登り始めまし

た。しかし、1マイルもしないうちにまた調子が悪くなりました。モーターを見つけて1晩泊まろうと思い、ハイウェイの最初の出口を下りました。けれども4軒のモーターを回っても、空きはありませんでした。

再びハイウェイに戻り、次の出口に差しかかりましたが、そこにモーターはなさそうでした。けれども、その出口で下りよう何かがささやいたので、ささやきのとおりになりましたが、問題の解決になりそうなものはありませんでした。出口を下りると、4車線の大通りにぶつかり、すぐに信号がありました。このような難しい状況で家族の

問題の解決になりそうなものはありませんでした。出口を下りると、4車線の大通りにぶつかり、すぐに信号がありました。このような難しい状況で家族の

車を降りて店に入り、その家族に近づきました。「あなたは車の整備士ですか。」

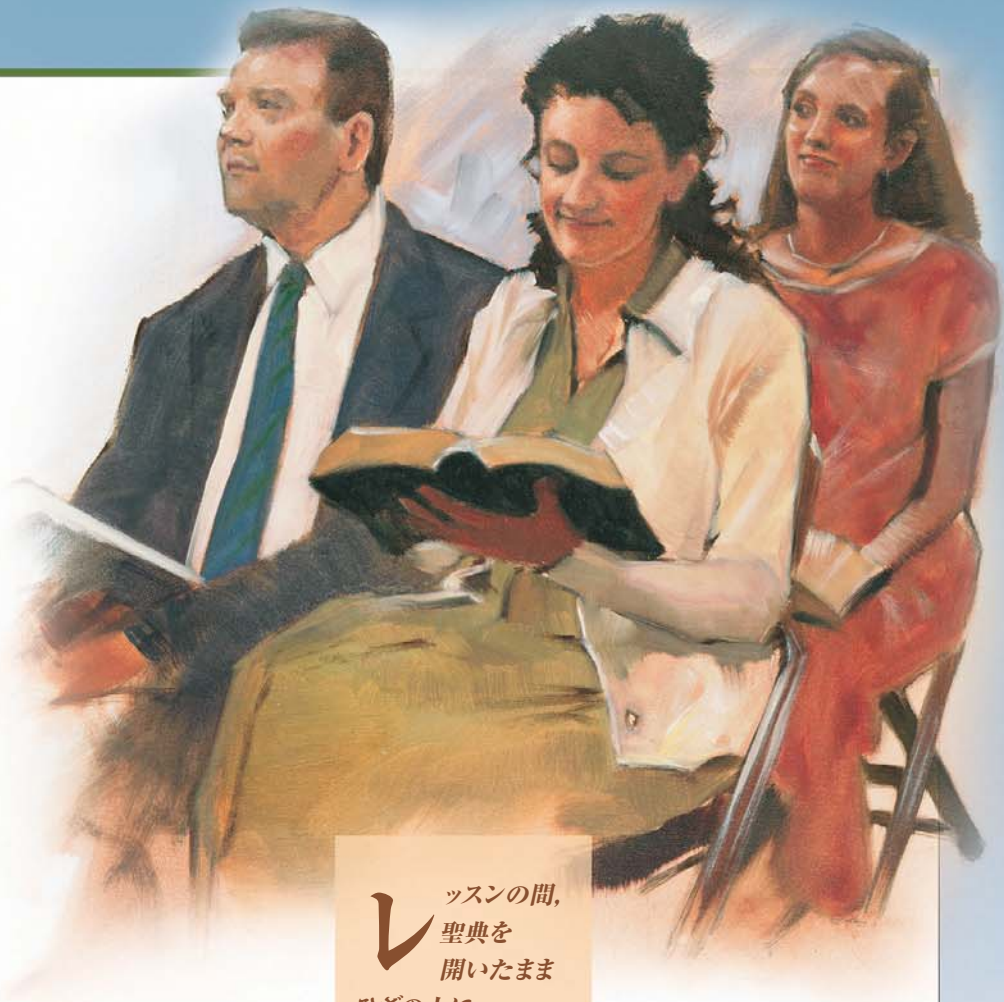
ために何ができるだろうかと、わたしは必死で考えていました。

すると、妻がわき道にある営業中のサンドイッチショップを指さし、止まって子供たちに何か食べさせたらどうかと提案しました。わたしは店に車を寄せ、長男にお金を渡して子供たちを店に行かせました。その間、妻とわたしはこれからどうするかを考えました。

わたしたちは疲れ切っていました。朝5時から運転を始め、すでに夜の9時近くになっていました。なぜ祈りがこたえられないのか、福音に添って生活しようとする普段の努力がこのような緊急時になぜ報われないのかと心の中で自問していました。すると、何かが違うという気持ちがありました。

顔を上げると、サンドイッチショップの外灯がついていないのに気づきました。わたしは妻に尋ねました。「どうやってこの店を見つけたんだい。大通りに看板でも出ていたのかい。」妻は、そうではなく、急に右を向かなければならないと感じて向くと、店がそ





こにあったと答えました。

うなずくと、頭の中を様々な思いがよぎりました。そして結論に達したので。わたしたちは福音に添って生き、子供たちを正しく育て、召しを忠実に果たそうとしてきました。信仰をもって祈り、促しに従ってその店にたどり着いていました。そのとき、自分たちが正しい場所にいることを理解しました。主がそこで何を用意してくださっているかという点だけが分かっていなかったのです。

次の瞬間、その答えが分かりました。店の中に助けてくれる人がいるに違いないのです。サンドイッチショップの方を見ると、いちばん手前のテーブルに若い夫婦と小さな子供たちが座っていました。車の運転席からでも、父親の手が油で汚れているのが分かりました。

わたしは車を降りて店に入り、その家族に近づきました。「あなたは車の整備士ですか。」

その父親は驚いて答えました。「ええ。」

問題を説明すると、その男性の奥さんがこう言いました。「それって先週わたしの車にあったのと同じ問題だわ。」男性が車を調子よく走らせるためにはどうしたらよいかを教えてくださいのおかげで、その夜はジョージア州のアトランタまで到達できました。そこで車を修理して、まるで何事もなかったように無事に帰宅しました。

その夜、我が家の子供たち、そしてわたしも、信仰の祈りが確かにこたえられることを学びました。ただ答えを理解するには、しばしば御霊を信頼する必要があります。■

クリス・L・クーバーは、サウスカロライナ州チャールストンステーク、チャールストン第1ワードの会員です。

レッスンの間、
聖典を
開いたまま

ひざの上に
置いていました。

ある聖句に

目を引きつけられて
繰り返し
読んでいたのです。

日曜学校を 選びました

ヘレン・ワーカー・ジョーンズ

わたしは英語の修士号を取得するため、総合試験に備えて、読書課題の長いリストを見直していました。十分に準備をしたつもりでしたが、まだ足りないのではないかと心配していました。35歳で学校に戻ったので、若かったころよりも学んだ概念を覚えるのが難しくなっているように思えました。

試験は月曜日の予定でした。日曜日の朝になると、日曜学校や扶助協会に出席するよりも試験勉強していた方が

よいのではないかと理屈をこね始めました。聖餐会だけ出席しようと決意しかけたのですが、ひどい罪悪感にさいなまれました。自分の幼い子供たちにどんな模範を示すべきかを考え、日曜学校と扶助協会に行くことにしました。

福音の教義クラスではヨブ記を採り上げていました。そして雄弁で謙遜な教師であるクレイトン・スミス兄弟が、力強く、霊的なメッセージを伝えました。レッスンの間、わたしは聖典を開いたままひざの上に置いていました。ある聖句に目を引きつけられて繰り返し読んでいたのです。

翌日、試験会場に到着して、試験官が試験用紙を配りました。論文形式で

答える設問が3つあり、3時間で解答しなければなりません。試験問題の一つを読んだとき、非常に驚きました。「次の中から少なくとも3作選び、その中で表現されている苦しみ of 概念について論じなさい。」3作の一つはヨブ記でした。

わたしは前日の日曜学校で読んだ聖句を直接引用して論旨を強調し、自分でも驚くほど簡単に答えを書くことができました。この問題をあつという間に終えたことで、残りの2間に時間をかけることができました。

試験の終わりに、「特別な」準備ができていたことに心から感謝しました。また、スミス兄弟のレッスンに参加したことで、ヨブ記に対して霊的な見解を得ることができ、より深く、熱心に、理解しながら問題に解答できたと感じました。それはレッスンに参加しなければあり得ないことでした。

数週間後に試験結果が掲示されたとき、自分だけが優等な評価を得たことを知りました。

それは忘れられない日曜学校のレッスンになりました。特に、安息日きよを聖く保ち、集会に必ず出席することを教えてくれたからです。あの日曜の朝、試験勉強に頭を詰め込むのではなく、福音の教義クラスに出席するよう靈感を受けたことに感謝します。■

ヘレン・ワーカー・ジョーンズは、ソルトレーク・エンサインステーク、エンサイン第1ワードの会員です。

奥さんが病院に運ばれました!

リュウ クアンファン
劉 寛逢

1986年のすがすがしい夏の朝、妻の秀琴シュウチンはある講義に出かける準備をしていました。そのとき、わたしは妻をバス停まで車で送るようにというはっきりした促しを感じました。妻は教師になるためのクラスを取っており、バス停は11キロ離れた所にありました。わたしはその促しをあまり気に留めませんでした。教会に加わって1年もたっていなかったため、聖霊の声がどんなものかもよく理解していませんでした。

妻がバイクに乗ってバス停まで出かけようとする、先ほどよりも強く同じ促しを感じ、車で送らなければ何かが起こると教えられました。わたしはその声を再び無視するという大きな間違いを犯しました。

10分後に電話が鳴りました。怖くて応答できませんでした。電話は鳴り続けました。ようやく受話器を取ると、相手はこう言いました。「奥さんが病院に運ばれました! すぐに来てください。」

病院に着くと、警告の声を思い出し、聖霊に耳を傾けなかったことを深く後悔しました。妻は重態でした。意識がありませんでした。さらに不幸なことに、妊娠9か月カクシヨクでした。医師は、設備が充実している高雄の大きな病院に妻を移送することを提案しました。様々な状況を考えると、その病院にすぐに移すべきだと感じました。病院へ向かう途中、わたしは天の御父に赦しだけでなく、妻の命を救ってくださるよ

うに懇願しました。

1時間20分後、その病院に到着しました。救急室の医師はCTスキャンを指示し、画像を確認した後、妻の頭蓋骨ズガイに損傷があることを告げました。さらにその後、空いているベッドがないことがわかりました。一日中、わたしはただ助けを求めて祈ることしかできませんでした。夕方の6時にかつての同級生の姉妹に会いました。彼女はその病院に勤めており、彼女のおかげで9階に空きベッドを見つけることができました。しかし妻はまだ意識不明の重態でした。

夜10時、妻を祝福してくれるよう宣教教師に頼むべきだと感じました。支部の宣教教師が高雄の長老たちに電話をかけてくれ、高雄の長老たちは20分後に到着しました。しかし、妻が意識不明のまま分娩が始まったことから、医師は宣教教師が病室に入ることを許しませんでした。そのため、わたしは妻の代わりにわたしを祝福してくれるように頼み、じゃまが入らないように会議室で祝福を受けました。

夜11時になっても赤ん坊は生まれなかったため、医師は帝王切開を行うために8階に移すことを決めました。すると、奇跡が起きました。8階に移ってから10分後に妻は出産したのです。出産自体は順調で、看護師から赤ちゃんを受け取ったとき、わたしは自分の目を疑いました。その顔立ちはわたしが毎晩祈るときに見ていた顔とまったく同じでした。

息子の誕生から7日後、妻はついに意識を回復しました。しかし、頭はまだはっきりせず、頭痛に悩まされました。主治医は大学病院に移って脳手術を受けたらどうかと勧めてくれまし

た。わたしは途方に暮れて、導きを求めて祈りました。けれども3分も考えないうちに、妻を別の医療センターに移すことを医師に告げました。その医療センターは医療保険の適用対象外だったため、実費を支払わなければならないことも承知していました。今回は聖霊によって促されていることを

理解していたので、決断が正しいと確信していました。

妻を医療センターに転院させると、台湾を巡回して珍しい症例を研究する医療チームがちょうど訪問していました。しかもその日はアメリカで専門の訓練を終えたばかりの脳外科医が一緒にいたのです。その

医師は妻の病状をすべて把握すると、手術の必要はないと言いました。1週間以内に快方に向かうだろうと言ったのです。わたしはその言葉を聞いて非常に安心しました。医師に感謝しています。しかし何よりも、正しい決断をするように導いてくださった天の御父に感謝しています。

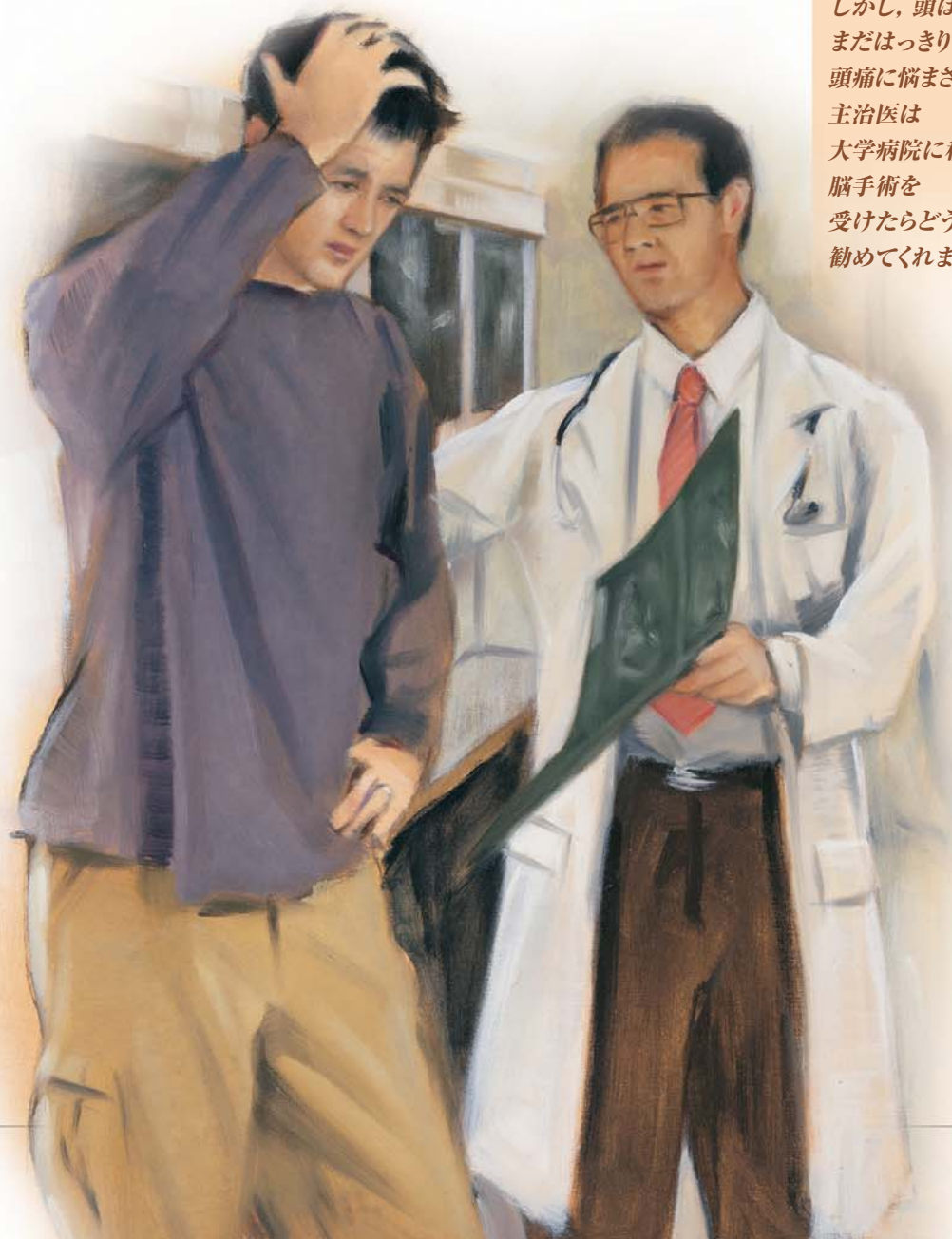
妻はついに意識を回復しました。

しかし、頭はまだはっきりせず、頭痛に悩まされました。主治医は大学病院に移って脳手術を受けたらどうかと勧められました。

医師が予測したとおり、妻は1週間で回復しました。その回復の速さには当の医師も驚くほどでした。医師の医療技術と天の御父の祝福のおかげで、妻は奇跡的に命を取り留め、今や完治しています。

わたしたちは皆、試練やかんなん艱難を経験しますが、いつも天の御父への信仰を保たなければなりません。御父の祝福なしでは、試練に堪え忍ぶことはできないのです。■

劉寬逢は、台湾高雄ステーキ、オシヤン旗山支部の会員です。



バプテスマに導いてくれた『リアホナ』

わたしが教会を知り、バプテスマを受けるきっかけになったのは、まさに『リアホナ』でした。1997年、11歳のとき、友達に『リアホナ』を何冊か見せてもらう機会がありました。子供のページの様々な記事もさることながら、美しい写真や絵に心を奪われました。間もなくわたしは、バプテスマを受けました。もう何年も前のことなのですが、このことは、鮮明に記憶に刻まれています。

ブラジル・アレグレステーク
イビラプイタワード
ポーラ・F・P・ダ・シルベira

一致を促す『リアホナ』

わたしたち夫婦は、2005年2月号のトーマス・S・モンソン第一副管長からのメッセージ「真に見ることができるように」の記事に、非常に感銘を受けました。わたしたちは、家庭の夕べで、この記事に注意深く研究しました。そして、二人で、伴侶、子供たち、出会うすべての人の顔に、キリストの面影を見る才能を伸ばすことを決意しました。この機関誌は、預言者のメッセージを通して、家族に一致を促し、天の御父の愛を感じさせてくれます。

コンゴ民主共和国・ルブンバシステーク
カトゥバ第2ワード
ジャスティン・ムクナ、クリスティーン・ムクナ

限りない感謝

わたしは『リアホナ』が大好きで、よく、教会員ではない友達に、『リアホナ』の記事を紹介しています。モルモン書も大好きです。真理を学ぶことは、何という特権でしょうか。そしてそれは、ジョセフ・スミスの偉大な功労のおかげなのです！真理を知ることが可能にしてくれた、主の忠実な僕たちに、限りなく感謝しています。

アルゼンチン・
コルドバ・シエラストーク
カルロスバスワード
マルタ・R・ギャリーガ



『リアホナ』で会員を助ける

『リアホナ』の、教会員の経験が書かれた、すばらしい記事に感謝したいと思います。2004年9月号に掲載されたエバ・フライ姉妹の記事、「鎖の輪」には、特に感謝しています。任地でワードにいる会員が似たような問題で苦勞しているときに、この記事を使っていますが、とても助けになっています。

メキシコ・メキシコシティ北伝道部
エーダー・エレラ・ガルネロス長老

回復に先立つ備え

わたしは歴史の教師として、2005年3月号の記事「回復に先立つ出来事」の掲載に、感謝を表したいと思います。主が、御自身の教会の回復のために必要な特別な状況を、いかに前もって準備されていたかを、歴史的な出来事を通して知り、この偉大な業が真実であるという証が増しました。

ブラジル・
レシフェ・ジャーディム・サンパウロステーク
カバレイロワード
マルセロ・オリント・ソアーレス・デ・モウラ





「ヨセフの着物をヤコブに持ち帰る」レンブラント・ファン・レイン(1606-1669年)作

ヨセフの兄たちは「ヨセフの着物を取り、雄やぎを殺して、着物をその血に浸し、その長そでの着物を父に持ち帰って言った、
『わたしたちはこれを見つけたが、これはあなたの子の着物か、どうか見さだめてください。』

〔ヤコブ〕はこれを見さだめて……〔自分の〕衣服を裂〔いた。〕」(創世37:31-34)



「回」 復の業の中で、
神殿の業は優先的に扱われました。
仕える天使により与えられた
最初の啓示にこの教義が含まれています。
教義と聖約第2章に記録されているこの啓示は
マラキ書第4章を繰り返したものです。
モロナイはエリヤが現れることを予告しました。
エリヤは父の心をその子供たちに向けさせ、
子供たちの心をその父に向けさせます。」
ラッセル・M・ネルソン
「ヤングアダルトと神殿」10ページ参照

